

平成23年度

「いのち」にかかわる授業を中心とした
道徳教育推進の取組

実践事例集



千葉県教育研究所連盟
調査研究部会

(幼稚園)		
・健康教育	・・・・・・・・	1
(小学校)		
・道徳、理科、保健体育、国語	・・・・・・・・	3
・国語、生活、特別活動、道徳等の総合単元	・・・・・・・・	5
・特別活動	・・・・・・・・	7
・道徳	・・・・・・・・	9
・理科、総合的な学習の時間、道徳	・・・・・・・・	11
・道徳、音楽	・・・・・・・・	13
・道徳、生活	・・・・・・・・	15
・総合的な学習の時間	・・・・・・・・	17
・道徳	・・・・・・・・	19
・道徳	・・・・・・・・	21
・道徳	・・・・・・・・	23
・特別活動	・・・・・・・・	25
・道徳	・・・・・・・・	27
・道徳、生活、特別活動	・・・・・・・・	29
・道徳	・・・・・・・・	31
・道徳	・・・・・・・・	33
(中学校)		
・技術・家庭、保健体育	・・・・・・・・	35
・技術・家庭、特別活動、道徳等の総合単元	・・・・・・・・	37
・数学	・・・・・・・・	39
・道徳	・・・・・・・・	41
・総合的な学習の時間	・・・・・・・・	43
・道徳	・・・・・・・・	45
・道徳	・・・・・・・・	47
・道徳	・・・・・・・・	49
・道徳、特別活動	・・・・・・・・	51
・道徳、特別活動	・・・・・・・・	53
・道徳、特別活動等の総合単元	・・・・・・・・	55
・道徳	・・・・・・・・	57
(高等学校)		
・道徳	・・・・・・・・	59

*本冊子についてのお問い合わせ

市川市教育センター

〒272-0015 市川市鬼高1-1-4

TEL 047-320-3335 Fax 047-320-3352

「いのち」にかかわる授業を中心とした道徳教育推進の取組				
教科・領域		健康教育		
市 町 村				
実 践 校		対象	4歳児・5歳児	
1 ねらい 身体の仕組みや命の大切さを知り、成長することに喜びを感じながら日常生活に結び付けられる。				
2 指導計画				
対 象	4歳児・保護者	4歳児・保護者	5歳児・保護者	5歳児・保護者
テーマ	いろいろなものを食べてみよう	どんなうんち？	“おしっこ”ってなあに？	大きくなったね
内 容	食品（栄養素）の働きを知り、なんでも食べる大切さを知る。	うんちの状態によって食生活を振り返り、毎日排便する大切さを知る。	腎臓・膀胱・心臓の役割と排泄の仕組みや大切さを知る。	自分が大きくなったことを感じ、成長を喜ぶ。（命の大切さ）
保護者への話	・献立のヒント ・食生活改善アドバイス	・便の状態を知ることや排便習慣の啓発	・おねしょについて ・乳がんについて	・規則正しい生活について ・更年期について
教 材	パネルシアター	内臓Tシャツ	おしっこのでる模型（太郎君人形） 乳がん用モデル	新生児人形 パネル 聴診器
専門機関との連携・協力	・〇〇ヘルスステーション（栄養士） ・健康支援課（栄養士）	・教材のみ借用	・〇〇ヘルスステーション（保健師）	・〇〇ヘルスステーション（保健師）
3 実践例				
① 主題名 健康教育「大きくなったね」				
② 本展開の目標				
<ul style="list-style-type: none"> 自分の体の大きくなっていることを実感し、成長に伴い様々なことができるようになっていくことに気づかせる。 さらに成長していくために、早寝早起き、排便、朝ごはん、偏食なし、外遊びが重要であることを知らせ、日常の生活に結び付くようにする。 				
③ 本時の展開（略案）				
過程	教師の支援		幼児の活動・反応 備考	
導入	<ul style="list-style-type: none"> 大きくなると何になる？ 花の種 毛虫 ひよこ 赤ちゃんは？ 赤ちゃんの大きさはどれくらい？ 人形の体重、身長を測ってみる 		<ul style="list-style-type: none"> 花の種→花 毛虫→蝶 ひよこ→鶏 大人になる *赤ちゃん人形 *体重、身長を測り幼児と比較 	
展開	<ul style="list-style-type: none"> 大きくなったね。大きくなってどんなことができるようになった？ 		<ul style="list-style-type: none"> 逆上がり、字が書ける、歌が歌える、一人でご飯が食べられる 等 	

<p>まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃんは自分の思いをどのように伝える？ ・成長の変化を掴ませるため、ゲストティーチャーに質問する。 ・最近できるようになったことを教えてください。 ・中学生になるとこんなことまでできるようになるんだね。 ・みんなは大人になったら何になりたい？ ・元気でもっともっと大きくなるためにはどうしたらよい？ ・保健師の先生に聞いてみよう。 ・みんなも5つのことを毎日しっかりできるようにしましょう。おうちの方も協力お願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> *ゲスト（保護者） お腹がすいた時、おむつがぬれた時、抱っこしてほしい時に泣いて伝える。 *スペシャルゲスト(妊婦、0歳児、1歳児、3歳児、4歳児、中学生の保護者) *妊婦～お腹の中でぐるぐる動くようになった。 *0歳児～寝返りを打つ、よく笑うようになった。 *1歳児～立って歩けるようになった。 *3歳児～踊りや歌をたくさん覚え、踊ったり歌ったりできるようになった。 *4歳児～三輪車や補助ありの自転車が乗れる。 *中学生～食事や部活動の様子を話す。 ・お花屋さん、サッカー選手 他 ・早く寝る！ なんでも食べる！ *保健師～①早寝早起き、②バナナうんち1本、③朝ごはんを食べよう、④好き嫌いしないでいっぱい食べる、⑤外で遊ぶの5つが大切
------------	---	--

4 成果と課題（幼児や保護者の感想から ○成果、●課題）

- 夕食時に「苦手なものでも1回は食べよう」と言っていた。
- 『早寝早起き、朝ごはん、バナナうんち、好き嫌いせず食べる、外で遊ぶ』をきちんと守ると、大きくなった時、元気モリモリになるんだよ」と教えてくれた。
- 0歳～4歳までのスペシャルゲストの様子から、自分たちの成長を実感できた。
- 親子で話すきっかけができた。自分が大きくなってきた過程に興味を持ち、大事にしてくれる人がいることを分かってくれた。
- 改めて生活リズムの大切さを実感した。親がしっかり早起きして、リズムよい1日を送らせてあげようと思った。
- 2年間で4回の健康教育に取り組んだ。親子で健康教育を受けることで健康についての親子の会話を膨らませ、共に生活を見直し、自分や家族の健康について考える機会になった。
- 今後ともさらに健康について意識を高めていく取り組みを計画的に実施していくことが重要であると実感した。

「いのち」にかかわる授業を中心とした道徳教育推進の取組			
教科・領域	道徳、理科、保健体育、国語		
市 町 村			
実践校		対 象	3年生
<p>1 ねらい 生命の尊さや自然のすばらしさを知り、生命あるものを大切にしていこうとする心情をはぐくむ。</p> <p>2 指導構想</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; width: fit-content; margin: 0 auto; padding: 5px;">事前</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p><子どもの意識や教師の願い> ○子どもたちは、生き物全てに命があり、その命を大切にしなければいけないということを頭では分かっている。しかし、生命のつながりや自分や友達の命を大切にすることについて真剣に考える機会は多くない。そこで、様々な学習や体験を通して生命の大切にしていこうとする気持ちを育てたい。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 30%;"> <p>理科「こん虫をそだてよう」 ○身近な昆虫を探したり育てたりして、成長のきまりや体の作りを知る。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 30%;"> <p>保健体育「毎日の生活と健康」 ○健康な生活には、食事や睡眠、運動などが必要であることを知る。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 30%;"> <p>国語「思いを読み取ろう」 ○「いのちのまつり」を読み聞かせし、作者の思いを読み取り、感想文を書く。</p> </div> </div> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; width: fit-content; margin: 10px auto; padding: 5px;">本 時</div> <div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0; text-align: center;"> <p>道徳 「たった一つの命だから」 3－（１）</p> </div> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; width: fit-content; margin: 10px auto; padding: 5px;">事 後</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>国語「家族川柳を作ろう」 ○生命の大切さや命のつながりを知り、その思いを生かし、家族への感謝の気持ちを込めた川柳づくりを行う。</p> </div> </div>			
<p>3 実践の概要 ～道徳～</p> <p>(1) 主題名 たった一つの命だから 3－（１） 資料名 「ぼくの妹に」 （出典 小学校道徳読み物資料 文科省）</p> <p>(2) 主題について 自他の生命が大切であることや生き物に命があることを知っていながら、生命を軽視した言動が見られることがある。生命はなにものにもかえがたく尊いものであることに気づかせ、生きることのすばらしさを味わわせたい。</p>			

(3) 資料について

本実践では、資料を二つ活用する。中心となる資料は、「ぼくの妹」である。本資料は、妹が生まれ兄として張り切っていた主人公が、母親を妹に独占されたような気持ちになったり、自分の不注意で妹に風邪をひかせてしまったりする。主人公は、病院の先生の言葉から生命の尊さについて考えるようになるという読み物資料である。

もう一つの資料は、「たったひとつの命だから」(地勇社)である。これは、読売新聞に「続く言葉 全国リレー」という見出しで紹介されていた本である。ある女性詩人に難病と闘う女子中学生から、「たったひとつの命だから」とただ一言書いた年賀状が届いた。その女性詩人が多くの人に「たったひとつの命だから」と問いかけ、集まったメッセージをまとめたものがこの本である。

この二つの資料を用いて、生命の尊さを感じ取り、これからの自分の命を大切に生きていこうとする心情をはぐくみたいと考える。

(4) 本時の指導

①自分が「生きている」と実感するときにはどんなときか話し合う。

- ・友達と楽しく遊んでいるとき。 ・ご飯をおいしく食べているとき。
- ・がんばっていたことが成功したとき。

②資料「ぼくの妹」を読んで話し合う。

i) 妹が生まれたとき、ぼくはどんな気持ちだっただろう。

- ・兄妹ができてうれしい。 ・たくさん面倒をみてあげたい。

ii) 母の言葉で妹に布団をかけ忘れたことに気づいたぼくはどんな気持ちだっただろう。

- ・もっと本気で妹のことを考えなければいけなかった。

iii) 病院の先生の話聞いて、ぼくはどんなことを考えただろう。

- ・命はたった一つだから、もっと大切にしなければいけない。

③今までの生活の中で、命を大切に感じた経験を話し合う。

- ・病気になったとき。 ・兄弟が生まれたとき。

④資料「たったひとつの命だから」を紹介し、この一行詩に続く言葉を考える。

- ・たったひとつの命だから・・・、家族にありがとうと言おう。
- ・たったひとつの命だから・・・、いろんなことにチャレンジしよう。
- ・たったひとつの命だから・・・、最後まであきらめない。

4 成果と課題 (○成果、●課題)

○3年生の5月は、理科で昆虫や植物の成長について学び、自分の手で命を育てる経験をする。命と向き合うこの機会を大切に、他教科や領域等と関連させて、道徳の授業を行うことで、子どもたちは命について、また自分の生き方について、真剣に考えることができた。

●道徳の授業において、子どもの本音を引き出すためには、心に響く資料を用いたり、活用の方法を工夫したりする必要がある。

「いのち」にかかわる授業を中心とした道徳教育推進の取組			
教科・領域	国語、生活、特別活動、道徳等の総合単元		
市 町 村			
実 践 校		対象	2年生
<p>1 ねらい 命のすばらしさに気付き、かけがえのない命を大切にしようとする心情を育てる。</p> <p>2 道徳の授業と他の教育活動との関連</p> <p>(1) 栽培活動 ○栽培活動を通して植物にやさしく接し、それらの命を大切にしようとする心情を育てる。</p> <p>(2) 校内行事「不審者対応避難訓練」 ○不審者に対しての恐怖や不審者からの避難方法を通して、命を大切に守っていかうとする態度を育てる。</p> <p>(3) 生活科「校外学習（葛西臨海水族園）」 ○生き物に直接触れることで、動物に親しみ、それらを愛護しようとする心情を育てる。</p> <p>(4) 国語科 『さけが大きくなるまで』 ○さけの成長を通して、生き物の生命の不思議に触れ、生き物への関心を育て、自然や動植物を大切にしようとする心を育てる。</p> <p>(5) 生活科「わたしのせいちょう」 ○自分の成長を通して、命を大切にしようとする心情を育てる。</p> <p>3 道徳の授業</p> <p>(1) 資料名 『ふしぎな音』 出典「2年生の道徳」(文溪堂) ○主題名 かけがえのない命 命のすばらしさに気づき、かけがえのない命を大切にしようとする心情を育てる。</p> <p>(2) 資料名 『たんじょう日』 出典「2年生の道徳」(文溪堂) ○主題名 命のありがたさ 命の尊さに気づき、大切にしようとする心情を育てる。</p> <p>(3) 資料名 『ハムスター』 出典「2年生の道徳」(文溪堂) ○主題名 命を大切に 動植物にはすべて生命があることに気づき、生命を大切にしようとする心情を育てる。</p>			
『ハムスター』の実践事例			
① 授業の流れ			
(発問1) 「命」とはどんなものですか。			
・資料『ハムスター』を読ませる。			
(発問2) うずくまったまま少しも動かないハムスターを見て、「ぼく」はどんな気持ちだったでしょう。			

(発問3) ハムスターをハンカチで包み、手の上で温めてあげた「ぼく」は、
どんなことを考えていたでしょう。

- ・ハムスターが手の中にいることを想像させて、手の上で温めている様子を動作化させる。

(発問4) 目は開かないが、よろよろと歩こうとするハムスターを見て、「ぼく」
はどんな気持ちだったでしょう。

(発問5) ひまわりの種をたくさん食べたハムスターを見て、「ぼく」はどんな
気持ちだったでしょう。

(発問6) これまでの自分の生活を振り返って、命を大切にしなければいけな
いと思ったのは、どんな時ですか。



- ・「心のノート」の56・57ページを活用し、生き物全てに命があることを理解させる。

② 授業者の反省

低学年が親近感を覚える動物を扱った資料を用いたことはよかったが、「動植物愛護」と「生命尊重」との道徳的価値の違いをはっきりと区別して指導するのが難しかった。資料が短く、広げにくかった。「生命尊重」を扱う際には、低学年においても人間の命を題材にした方が、ねらいとする道徳的価値を追究できるのではないかと考えた。

4 成果と課題 (○成果、●課題)

- 動作化を取り入れてから発問することにより、子どもたちが主人公になりきって発言することができた。
- 低学年が親近感を覚える動物を扱った資料を用いたことで児童にも親しみやすく興味を持って考えられた。
- 動作化の前に、より心配させる雰囲気をつくるとよかった。
- ねらいを達成させるためには資料選定が大切である。「生命尊重」では基本的に人間を題材にした資料の方がよい。
- 低学年の「生命尊重」は「死」ではなく、「生きている証」を扱う方がよい。
- グループで話し合わせるのは中学年頃から行うようにするとよい。

「いのち」にかかわる授業を中心とした道徳教育推進の取組			
教科・領域	特別活動		
市 町 村			
実 践 校		対 象	3年生・4年生
<p>1 ねらい</p> <p>○生命が誕生するまでのことを知り、自分や友達の命を大切に思う心を養う。</p> <p>○男女の体のつくりの違いを知り、友達や異性への思いやりを育てる。</p> <p>2 実践例</p> <p>○3年生と4年生の学年活動として「いのち」の授業を毎年実施している。</p> <p>参加者 3年生、4年生とその保護者</p> <p>指導者 地域の助産師さん2名</p> <p>内 容</p> <p>①壁掛けの人体模型を使って</p> <p>プライベートゾーンを知る。 人に見せない（触らせない） 清潔にする</p> <p>性器について知る。 男の子 洗い方 おしっこの仕方 (清潔にする意味) 女の子 ウンチの拭き方</p> <p>②妊婦体験スーツを使って</p> <p>お母さんの大変さを知る。おなかの重さ トイレや風呂の掃除の負担 おなかを守る動き</p> <p>③針で穴を開けた黒色画用紙を使って</p> <p>「いのち」のもとを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 男 精子（おたまじゃくしみたい） ・ 女 卵子（たまごみたい） <p>④沐浴人形を使って</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 赤ちゃんの重さを知る。 ・ 赤ちゃんの大きさを知る。 ・ 赤ちゃんの抱き方を体験する。 			
			
			

⑤NHK「誕生」のビデオを見て、助産師さんの話

赤ちゃんの不思議（力）を知る。

- ・ おなかの中で羊水を飲んでおそうじをする。
- ・ 胎盤・へその緒でつながっているが、お母さんと血が混じることはない。（すでに別の人間として）
- ・ 産まれるときに、頭の骨を小さくたたんで、お母さんを助ける。

成長ホルモンの説明を聞く。

- ・ 思春期とは
- ・ どうしてイライラするのだろう
(脳の働き)
- ・ からだの変化
- ・ 親とのかかわり方



⑥保護者への対応（児童が退室した後）

- ・ 子育ての悩み相談
- ・ お母さんたちの体の変化
- ・ 思春期の子どもと更年期の母親との関わりについて

⑦事後指導

- ・ 学んだことを新聞にまとめる。
- ・ 感想文を書く。
- ・ 折に触れて振り返りの指導をする。

3 成果と課題（○成果、●課題）

○3年4年の中学年の児童ということで、照れや偏った興味が少ない年齢で実施しているため、学習という意識で、真剣に話を聞いたり体験したりできた。

○家庭に帰ってから、親子で話し合ったことの報告があった。

○異性の体について、お互いに「そうなんだ。」という声が聞かれ、相互理解が進んだ。

○赤ちゃんの誕生について学んだことで、一人ひとりが唯一無二の存在であることを意識することができた。

○「とても大切なことを習った。」と保護者に話した女子がいたという報告があった。

●保護者の出席率が低いので、今後積極的に呼び掛けていきたい。

●中学年の児童を対象に「いのち」の授業を継続していきたい。

「いのち」にかかわる授業を中心とした道徳教育推進の取組			
教科・領域	道徳		
市町村			
実践校		対象	4年生
<p>1 ねらい</p> <p>災害にあった人びとの思いや残された人びとの思いを感じ、自他の生命を大切にし、精いっぱい生きていこうとする意欲と態度を養う。</p> <p>※妹を失った姉いつかさんの心情の変化を考え「はるかのひまわり」の活動を通して、命の大切さ、支え合って精いっぱい生きていくことの尊さに気づかせる。</p> <p>2 児童の実態</p> <p>東日本大震災を経験し、児童は全国で多くの命が失われたことを知った。</p> <p>震災の日、帰ることのできない家族を待っていた児童、親戚の安否を案じていた児童、仕事のために父親を福島に残して転校してきた児童など、置かれた境遇はさまざまであるが、それぞれに「いのち(=生きている)はかけがえのないもの」という思いが強くなったようだ。</p> <p>しかし、「いのちを大切にすることは、どういうことだと思うか。」というアンケートを行ったところ、大半が「事故にあわない・病気にならない」など、死なないことだと考えていた。「生きている一瞬一瞬を大切にすること」という価値について答えたのは3名だけであった。</p> <p>3 授業実践</p>			
	主な学習活動	児童の反応	
導入	①3月12日、東日本大震災翌日の新聞から被災者の思いを考える。 ②16年前に起きた阪神淡路大震災を知り、「はるかのひまわり」という言葉の意味について話し合う。	①たくさんの人がなくなった。家族や家を失って悲しいと思う。 ②神戸にも地震があったんだね。聞いたことがあるよ。	
展開	「はるかのひまわり」を途中まで読み、ひまわりを遠ざけてしまう主人公の気持ちを話し合う。 (机を下げて、児童を前に集めて読む) 続きを読み主人公の行動(心情)の変化から、何を伝えようとしているのかを考える。 (席を戻し、続きの資料を配付し読み聞かせる。)	<ul style="list-style-type: none"> ・はるかちゃんが植えたひまわりかな。はるかちゃんがすきだったのかな。 ・妹はもう帰ってこない。地震もはるかも忘れたい。何もかもいやで死んでしまいたい。 ・ひまわりを見てみんな元気になって欲しい。 ・日本中にひまわりを咲かせて命の大切さを広めて欲しい。 	
終末	東日本にも届けられた「はるかのひまわり」の活動を知り、たねを受け取ることで自分たちにできることを考える。 (はるかのひまわりのタネを配付する。)	<ul style="list-style-type: none"> ・今も続いていてすごいなあ。 ・東北にもきれいなひまわりを咲かせたい。 ・種がとれたら他の人にもあげよう。 	

4 資料内容「あの日をわすれない はるかひまわり」(出典：PHP 研究所) 絵本

本資料は、阪神・淡路大震災における実話である。

夏になると、神戸市東灘区では「はるかひまわり」と呼ばれるひまわりがたくさん咲く。震災の犠牲になった「はるかちゃん」がかわいがっていたオウムのエサが芽を出し、花を咲かせたのだろうと考えた人たちが「はるかひまわり」と名付け広めていった。がれきの跡に咲いたひまわりは、神戸の人々を励まし、勇気づける。しかし、姉のいつかさんは「もういやや。地震もはるかの思い出も、ひまわりも、いや。」と心を閉ざしてしまう。いつかさんが周りの人とふれあいながら、悲しみを乗り越え「はるかひまわり」の活動を始めるまでを描いた物語である。

5 児童の感想

①いつかさんは全国の小・中学生にどんなことを伝えようとしているのでしょうか。

私の二の舞になったらあかんで、助けてくれた人に感謝するんや。そして次の命に伝えていくんや。他の人にも伝えてくれや。はるかひまわりは最高や。後は自分で立ち上がるんや。

(注：いつかさんになりきって書いています。)

地震でなくした大切なもの、優しい人の気持ちやなかまのことを伝えたい。

ボランティアの人が私に勇気をくれた。だから今度は、私が勇気をあげる番だ。

②あなたが今できることはなんだと思いますか。

東北の人に勇気をあげたい。花を育てて被災した人に届けたい。神戸のように明るい町にしたい。

命を大切に。はるかさんのひまわりを日本中にたくさん育てる。死にたいなんて思わない。

6 成果と課題 (○成果、●課題)

○本文は1時間の授業で扱うことを考慮し、一部を省略して構成し直して使用した。絵本を資料にしたことで、文だけでなく絵や色彩の変化からも震災の様子や妹を亡くした姉のつらい気持ち等を考えさせることができた。また、発問を2つにしたことで、子どもたちの思考があまり多方面に分散せずに『姉が立ち直っていく過程』と『自分たちも生きていく』という点に絞られた。

○子どもたち自身も東日本大震災を体験し、被災地でのボランティア活動をする人々を多くのメディアで見聞きしていたので、本時においても周りにいた人々の優しさが姉『いつかさん』を立ち直らせるきっかけになったのだということを安易に想像することができた。また、そのことが「自分たちも何かしたい。何かできる。」という思いに繋がった。

○全員に『はるかひまわり』のタネを渡した。子どもたちが実際にタネを手にしたことで、自分たちにも出来る『花を育てること』やその出来事を『伝えること』『忘れないこと』そして『せいっぱい生きること』への意欲が湧いた。

●子どもたちの東日本大震災での心理的な不安等を考慮して、授業を7月に行ったが、ひまわりを実際に育てるには遅い時期なので、花を育てることを通して『命の大切さ』を伝える活動を続けるには、5月頃の実践にした方がよい。

「いのち」にかかわる授業を中心とした道徳教育推進の取組			
教科・領域	理科、総合的な学習の時間、道徳		
市 町 村			
実践校		対 象	3年生

1 ねらい

どんな生き物でも、命の大きさや価値は同じであることに気づき、これから先も生き物を大切にし、命を大切にできる態度を育む。

2 実践例

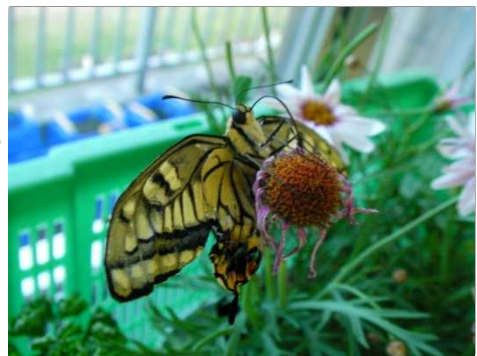
<理科「植物の育ち方」>

- ・オクラやホウセンカを育てながら、成長の過程や体のつくりを調べたり観察したりして、それらの成長のきまりや体のつくり・様子を観察カード等に表していった。
- ・夏休みにも家に持ち帰り、観察を続けた。大きなオクラの実ができ、実や種のつくりについても知ることができた。
- ・たくさん実ができた児童は、茹でて食べてみた。



<理科「チョウを育てよう」>

- ・モンシロチョウやアゲハチョウの「卵→幼虫→さなぎ→成虫」と育っていく様子を、グループ毎に観察し、成長の様子を紙芝居等にまとめて発表した。
- ・さなぎから羽化するところも見ることができ、感動の瞬間を味わうことができた。



<道徳 「大切な命」 3－(1)>

資料 「つよしくんのしっぱい」(自作資料概略)

小学3年生の昆虫博士つよしくんが経験する大失敗のお話。

ある日、虫かごいっぱいにはバッタをとってきたつよしくん。「すぐに逃がしてあげなさい。」というお母さんの声にも空返事。(大好きなクワガタの世話は必ずするのだけれど…。)

次の日目が覚めた時にはもう手遅れ、バッタはみんな…。その夜、つよしくんの夢の中には、見たこともない大きなバッタが登場。つよしくんは大きなバッタに追いかけられ…。

夢から覚めたつよしくんはどんなことを考えただろう。

道徳シートの吹き出しに つよしくんが考えたことを書いて発表しよう。

- ・「ごめんよ。これからはバッタくんもクワガタくんと同じように毎日欠かさずにかわいがるよ。

- ・「どんな生き物でも責任を持って世話をしあげなきゃいけない。」
- ・「どの命もみんな一緒に大切なんだ。差別してはいけない。」
- ・「命の大きさや価値に違いはない。」

生き物の世話について、これからどうしていこうと思いますか。


- ・「欲張ってたくさん生き物を捕まえないようにする。」
- ・「毎日ちゃんとえさをあげて、世話をします。」
- ・「最後までしっかり育てて、ちゃんとお墓も作ってあげます。」

<総合的な学習の時間「サツマイモパーティーをしよう。」>

- ・育てたサツマイモを収穫して、スイートポテトや芋巾着をつくろう。
収穫はしたものの、残念ながらインフルエンザが流行し、中止になる。

3 成果と課題 (○成果、●課題)

- 様々な体験活動と道徳の授業を結びつけた授業を行ったが、植物（オクラ、ホウセンカ、サツマイモ、等）と昆虫（モンシロチョウ、アゲハチョウ等）の実物にたくさん触れることのできる3年生のこの時期は、命の大切さを学習するには最適の時期であることがはっきりとした。
- 道徳の時間の学習では、こうしたたくさん体験的な活動と関連させたことで、資料の中のできごとを自分のことのように考え、道徳シートや発表では、自分の実体験と比べながら、真剣に登場人物の気持ちを考えていくことができた。
- この道徳の授業の前後を比べると、むやみやたらに虫を捕っては、放置するというような命を粗末に扱う児童はいなくなった。
- 生き物を実際に育てていくということは難しく、一生懸命に育てていても死なせてしまうことが少なくない。そんな時、その子にどんなフォローをしてあげられるか。また、無責任な世話で死なせてしまった子には、どんな指導が適切か。を吟味し、命の大切さを教えていく上での言葉掛けを更に考えていきたい。

「いのち」にかかわる授業を中心とした道徳教育推進の取組			
教科・領域	道徳、音楽		
市 町 村			
実 践 校		対 象	6 年生
1 ねらい			
人の死にかかわる出来事や周囲の人々の心情に触れさせ、生命の重さを感じ大切にしようという心情を養う。 3－(1) 生命尊重			
2 実践指導計画			
第1次	一生懸命生きるとは・・・「あすという日が」(音楽)		
第2次	資料名「涙そうそう」(道徳)	出典「みんなで考える道徳」日本標準	
第3次	資料名「犬と私の10の約束」	出典「みんなで考える道徳」日本標準	
3 実践の概要			
【第1次】 一生懸命生きるとは・・・「あすという日が」(音楽)			
(1) 日 時	○月○日 4校時 (音楽)		
(2) 内 容	① 3月11日に起きた大地震のことを思い返し、自分自身の体験を語る。 ② 今、東北で、「あすという日が」という歌が人々の力になっていることを知る。 ③ 曲を聴き、なぜ、東北の人たちの力の源になっているのかを歌詞の意味を読みとりながら考える。 ④ どんなにつらくても、今を一生懸命に生きていくことの大切や命の尊さについて話し合う。 ⑤ 歌詞の意味を考えながら、歌を歌う。 ⑥ ○月○日 4校時 音楽集会 「一生懸命」というテーマのもと、一生懸命頑張っていることは何かを考えた。そして、命の大切さについて考える機会を設けた。		
(3) 資 料	「あすという日が」 山本瓊子作詞 八木澤教司作曲		
			
【第2次】 身近な人の命への思い 資料名「涙そうそう」			
(1) 日 時	○月○日 4校時 (道徳)		
(2) 内 容	① 「涙そうそう」の歌詞から感じたことを話し合う。 ※ 「涙そうそう」のオルゴール曲をかけながら朗読する。 ② 「涙そうそう」の言葉の意味を考える。 ※ 涙があふれてポロポロこぼれる様子		

- ③お兄さんへの想いとはどのようなものかを話し合う。
 - ・ いつまでたっても消えない悲しみ
 - ・ 残念な気持ち。無念さ。
- ④1つの命が失われた後の、残された家族や友人の悲しみの深さを自分に置き換えて想像してみる。
 - ※人の死と、周囲の人々の悲しみに触れることで、1つの生命の重さを感じ、大切に生きようとする気持ちを高めさせる。
- ⑤全員で「涙そうそう」を歌いながら終わらせる。

【第3次】 命あるものの大切さ 資料名「犬と私の10の約束」(道徳)

(1) 日 時 ○月○日 3校時

- (2) 内 容
- ①9つの約束を発表させ、どう思ったか話し合う。
 - ②10個目の約束は何か、考える。
 - ※ 10個目の約束
「私が死ぬとき、そばにいてください。そしてどうか覚えていてください。私がずっとあなたを愛していたことを。」
 - ③10個の約束を読んで、どう思ったかを話し合う。
 - ※生き物を飼うためには、最後まで世話をする責任があることに気づき、自他の生命を大切にしていこうとする気持ちを高めさせる。

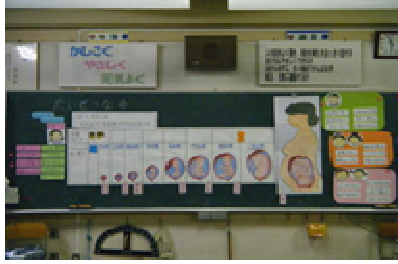

(3) 資料について

澤本嘉光作「犬と私の10の約束」(毎日新聞夕刊2007年6月2日掲載)
 作者は、2006年クリエイター・オブ・ザ・イヤーを受賞したCMプランナーであり、松竹映画「犬と私の10の約束」の脚本も担当している。また、もとなったのは、インターネットで広まった作者不詳の「犬の10戒」。原文は英語である。

4 成果と課題 (○成果、●課題)

- 東北で起きた大地震は、児童にとっては人ごとではなく、自らも大きな地震や臨海で起きた工場の爆発事故を体験し、命の重みを感じている。しかし、時間の流れとともに風化してしまうのが、世の流れであろう。そこで、あえて、東北の人たちの悲しみ・苦しみ・つらさ・そして、それらをみんなで力を合わせて乗り越えていこうという強さにふれることで、自分の心をもう一度見つめ直す良いきっかけとなった。命はたったひとつ。だからこそ、今を一生懸命生きていくことの大切さを知ることが必要である。道徳の時間を要として、音楽集会を通して全校にも発信することができ、とてもよい機会となった。
- 自他の生命を大切にしようという心情を育てるためには、身近なペットに関する資料を使うと児童も考えやすいし、話し合いも活発になった。
- いのちに関わる授業は、継続的に行っていないと心に響いていかない。そのため、特別活動や他教科との関連を考えながら道徳の年間計画を立てていく必要がある。

「いのち」にかかわる授業を中心とした道徳教育推進の取組			
教科・領域	総合的な学習の時間		
市町村			
実践校		対象	3年生
<p>1 ねらい たくさんの命のつながりの中で自分が生まれてきたことを知り、家族に感謝する気持ちをもつとともに、自他の生命を大切にする態度を育てる。</p> <p>2 単元指導計画～「たいせつな命」4回シリーズ～ 〈第1回〉生命のつながりについて考え、自分の誕生にたくさんの命（祖先）が関係していることを知る。 〈第2回〉へその緒の役割を知るとともに、母親とのつながり・命のすばらしさについて知る。 〈第3回〉赤ちゃんが母親のお腹の中で育つ様子や家族の愛情について知る。 〈第4回〉家族に感謝の手紙を書く。</p> <p>3 実践の概要 〈第1回〉 生命のつながり (1) 日時 ○月○日（金） 2校時 (2) 内容 ①自分の家族について考える。 ②「いのちのまつり」の読み聞かせを聞く。 ③生命のつながりについて話し合う。 ④授業の感想を書く。 〈第2回〉 おへそのひみつ (1) 日時 ○月○日（金） 2校時 (2) 内容 ①紙芝居「おへそのひみつ」を聞く。 ②へその緒の働きを知る。 ③赤ちゃんの育つ様子について話し合う。 ④授業の感想を書く。 〈第3回〉 たいせつな命（指導略案参照） (1) 日時 ○月○日（水） 5校時（公開研究会） (2) 内容 ①赤ちゃんの成長を知る。 ②赤ちゃんの重さを体験する。 ③家族の愛情について話し合う。 ④家族からの手紙を読む。 たいせつな命（指導略案）</p>			
時配	児童の活動	○指導上の留意点 ●評価	資料
5	○赤ちゃんは、お腹の中でどのくらい育つと生まれてくるか考える。	○命が誕生したときの大きさ(針の穴くらい)やへその緒の働きなど、前時を思い出させる。 ○4月に受精すると12月に生まれることを知らせる。	誕生カレンダー
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> ぼく、わたしは、どのようにうまれてきたのだろうか。 </div>			
10	○お腹の中の自分(赤ちゃん)はどのように育っているかを知る。(生まれる前の赤ちゃんの重さを体験する。)	○お腹の中の成長の様子を説明し、カレンダーに付け加える。 ○お腹の重さを体験することで、お母さんの大変さを実感させる。	妊婦体験用だっこうひも

		
<p>7 ○生まれる時の自分(赤ちゃん)の様子を知る。</p> <p>8 ○生まれるまでお母さんはどんな気持ちで待っていたのかを考える。</p> <p>10 ○家族からの手紙を読み感じたことや思ったことを話し合う。</p>	<p>○10ヶ月目になり自分が生まれようとする時、お腹の中にいる赤ちゃんはどんな行動をしていたのかを知らせる。</p> <p>○赤ちゃんが生まれてくるまでの家族の期待、不安、そして生まれてきたときの喜びや感動、胎児のうまれようとしている力と合わせて話すようにする。</p> <p>●出産の時の、お母さんの様子と胎児の努力を理解することができたか。</p> <p>○家族の手紙を読んで生まれてきたことへの感謝の気持ちを持てるようにさせる。</p> <p>●赤ちゃん誕生はお母さんも赤ちゃんも頑張って生まれようとしてきたことや、家族みんなに喜ばれて生まれてきたことがわかったか。</p>	<p>家族からの手紙</p>
<p>お腹の中にいる時も生まれる時も、生きるための力を持ち自分も家族もみんな力を合わせて頑張ってきた。</p>		
<p>5 ○学習した感想をまとめる。</p>	<p>○プリントは家庭に持ち帰り、保護者の感想を記入してから学校へ提出する。(授業研究の際は保護者も参観している。)</p>	<p>学習プリント</p>
<p>〈第4回〉 命をありがとう (1) 日時 ○月○日(金) 2校時 (2) 内容 ①授業をふり返り、家族からの手紙を読み返す。 ②家族にあてた手紙を書く。</p>		
<p>4 事後指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を家庭に知らせ、家庭でも生まれてきた時のことを話してもらおうようお願いする。 ・機会を捉えて、命の大切さについて話をしたり話し合わせたりする。 		
<p>5 成果と課題 (○成果、●課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業後、親子で改めて命の大切さについて話をしたという保護者からの感想が多かった。 ○友達に対して、優しい気持ちで接することができるようになった。 ●学年の発達段階に応じて、命について学習していく必要がある。 		

「いのち」にかかわる授業を中心とした道徳教育推進の取組			
教科・領域	道徳		
市町村			
実践校		対 象	2年生
<p>1 ねらい 自分の、生きているもの全ての命の尊さについて考えを深め、生きている喜びを実感することにより、命の大切さを自覚できるようにしていく。</p>			
<p>2 単元指導計画 ～「命の輝き」～ 第1回 道徳「ぼく」 第2回 道徳「たんじょう日」 第3回 道徳「ゆきひょうのライナ」</p>			
<p>3 実践の概要</p> <p>第1回 道徳「ぼく」 (1) 日 時 ○月○日 3校時(道徳) (2) 内 容 ① 自分の好きなことや大切なものについて話し合う。 ② 「ぼく」をパネルシアターで見て、それについて話し合う。 ③ 自分を肯定的に見つめ、「こんな自分が好き」を書く。 ④ 「ぼく」を絵本で読み聞かせてもらい振り返る。</p> <p>第2回 道徳「たんじょう日」 (1) 日 時 ○月○日 5校時(道徳) (2) 内 容 ① 誕生日にうれしかったことを話し合う。 ② 「たんじょう日」をプレゼンテーションを見ながら読みかきかぜで知り、それについて話し合う。 ③ 家の人からの手紙を読み、自分の誕生時の様子や家の人の思いを知る。 ④ 家の人に手紙を書く。</p> <p>第3回 道徳「ゆきひょうのライナ」 (1) 日 時 ○月○日 5校時(道徳) (2) 内 容 ① 家で飼っているペットのえさについて考える。 ② 「ゆきひょうのライナ」のプレゼンテーションを見ながら、それについて話し合う。 ③ 「食べ物」を「命のもと」として捉え直し話し合う。 ④ 「いただきます」のあいさつの意味について、説明を聞く。</p>			
<p>4 事後指導 国語「さけが大きくなるまで」や生活科「大きくなったわたしたち」との関連を図り、家庭の協力も得ながら、子どもが自分を肯定的に認め、命の大切さを実感できるようにしていく。 第2回「たんじょう日」の際の家の人と子どもの手紙は文集という形で残し、学習を思い出深く振り返ることができるようにしていく。</p>			

「命の輝き」を実施して

<第1回「ぼく」>

お母さん、友達、ペットの犬……たくさんの好きなものがある中で、一番好きなのは、「ぼく」だってぼくがないと、「何もできない。つまらないもの…」ということを物語る資料「ぼく」をパネルシアターで提示する。

このあと資料について話し合い、自分の好きなどころをさがし、作文でまとめた。



～子どもの作文から～

- ・お姉ちゃんとけんかしても仲なおりでできる自分が好きだし、学校のわたしも好き。だってやさしくしたら学校でいっぱい友だちができたし、お姉ちゃんとはけんかしてもすぐあやまってまたあそべるから、そんなわたしが好きです。

<第2回「たんじょう日」>

誕生日に、小さい頃体が弱くて母親にとっても心配させたたくさん世話してもらったことをアルバムを見ながら聞くなつこ。はじめてそのことを知り、誕生日に「すばらしいプレゼント」をもらったと感じるなつこについて、話し合いをし、それぞれ家の人からの子どもへの手紙を渡した。それを読み自分の生育についてのエピソードを知り、家の人への手紙を書いた。



授業のまとめで「今日帰ったら、家の人にだっこしてもらおうこと」を宿題とした。上手にだっこしてもらおうために、「だっこ」のしてもらいかたを確認した。

～子どものお手紙から～

- ・ママの子どもになれてとてもうれしかったよ。ゆうは弟がいるからあまりかまってもらえないけど、がまんするよ。パパもまいにちおかしとかかってくれてありがとう。ゆうもまいにち、お手つだいするからね。

5 成果と課題 (○成果、●課題)

○特に第2回の授業では、家庭の協力を得られたということがとても効果的だった。家の人からの手紙を食い入るように見て、何度も読み返す子どもたちの姿は、なにより「生きていてよかった」「生まれてきてよかった」を体現している姿だったと思う。

●全員の家庭の協力を得るのは、かなり大変で、事前の準備・呼びかけ・手配・確認など、時間も手間もかなりかかった。余裕を持つての取り組みが必要である。

「いのち」にかかわる授業を中心とした道徳教育推進の取組			
教科・領域	道徳		
市 町 村			
実 践 校		対 象	4年生
<p>1 ねらい</p> <p>未曾有の災害である東日本大震災を振り返り、被災した人たちの姿や、それを支えるたくさんの方の思いに触れ、命はかけがえのないものだと知り、自分も人々と絆をつなぐとすることができる。</p> <p>2 本時へつながる事前の指導</p> <p>東日本大震災から6ヶ月が経とうとする今、震災について振り返らせることで、忘れてはならないものがあることを子ども達に感じて欲しいと考えこの授業を計画した。まず、今も見つからない多くの命があることや、悲しみに打ち勝っていこうとしている人がいることに気づかせる。そして、震災に心を痛み、支え合っていこうと活動する人々がいることの素晴らしさや、その思いに触れ、人々をつなぐ絆について考えさせたいと考えた。</p> <p>【授業の概要】 <東日本大震災で被災地が受けた被害のすごさと、悲しみに包まれた人々を支えようとする人々の様子を振り返る。></p> <p>資料：『東日本大震災に関するニュース映像』NHK 『東日本大震災ツイッターのつぶやき』VTR</p> <p>○被災地の人々の恐怖や悲しみを4年生なりに受け止め、感じたことを言葉に表すことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映像を視聴したり、新聞記事等を話し合ったりする中で津波の恐ろしさを実感させることができた。 ・亡くなった人の多さに気づき、人々の悲しみの大きさを感じ取らせる。○○市や、○○地区の人口と比較し、○○地区の人口に当たるほどの人数がまだ見つからないことに驚いていた。 <p>○『東日本大震災ツイッターのつぶやき』のVTRを視聴させたことで、小さな子どもたちも自分の小遣いを被災地への募金としたことへの感動や、自衛隊の方々の苦悩などへの気づきがあった。</p> <p>○被災地でのボランティアに参加した方に聞きたいことをワークシートに書く。</p> <p>○次時にいらっしゃるボランティアに行かれた○○先生に聞いてみたいことをあらかじめワークシートに書かせ児童が次時の授業に積極的に関わっていけるようにさせた。</p> <p>3 実践の概要（本時）</p> <p><ねらい></p> <p>○東日本大震災被災地の子どもたちの今を知り、友達と支え合うことの素晴らしさに気づき、困難な時も人と人との絆があれば生きていく力になることに気づくことができる。</p> <p><学習活動と内容></p> <p>① 今日のテーマを知る。</p> <p>【テーマ：つながる】被災地で支え合って生活する子ども達を知り、人と人とのつながりについて考えていこうというところをおさえて、テーマを与えた。</p> <p>② 今日のお客様を紹介する。</p> <p>○○先生（被災地へのボランティアに積極的に参加している。）</p>			

③ 資料 DVD「21人の輪」(NHK教育番組)を視聴する。



- ・避難所で暮らす みなきさんとあさんの友情について話し合う。
- ・感想を話し合う前に、おさえたこと。2人はどちらも家を流されてしまったことや今の状況。避難所での2人のつながりとお互いへの言葉。この2点を主としておさえておいた。授業では、視聴後自由に感想を話し合う中で2人が、お互いを大切に思い、心の支えとしていいるという意見が多く、2人の思いに寄り添っていた。
- ・クラスの子どもたちは、みなきさんとあさんの2人が、「お互いに直接言わなくても気持ちは分かっている。」や「みなきちゃんは、明るいように見えるけど本当はさみしいとかあると思う。」「楽しく話したり、話を変えたりしている。」「のあちゃんといると笑っている。」等の言葉に着目し、きっと悲しいこともあると知りながらも、口に出さず思いやっていることに気がついた。

④ ○○先生から被災地での2度のボランティアについてのお話を聞いたり、質問をしたりする。

- ・どんな思いで行ったのか。被災地でのボランティアの大変さや喜び感動、つらさ等を知ることができた。
- ・被災当時と今を比べて様子はどうか変化したか、人々の思いはどうかを聞くことで、実際に見てきた人の言葉の重さに気づいた。そして、人々の思いが復興につながっていることが分かったと考える。

⑤ まとめる。


「つながる」～それは、人と人。心と心。それは絆となる。

今日の学習で自分が考えたこと、今自分にできる事は何かを考えて、ワークシートに書く。



4 成果と課題 (○成果、●課題)

- 道徳で、東日本大震災についても一度考えていったことは、子どもたちのこれからの生き方へつながったと感じる。PCのツイッターのつぶやきから日本の素晴らしさに気づき、映像から自衛隊の人の心の強さに触れた。ボランティアに行かれた方をお呼びしたことで、復興へ積極的に関わろうとしている人の生の声を聞くことができた。今まで知らなかった人と人との絆を感じて自分もつながっているという思いが感じられたと考える。それは、子どもたちのワークシートに書いた感想やつぶやきに表れていた。
- この学習が、これからも「いのち」を考えることにつながっていくように、道徳の時間だけでなく、教科・領域・生活のすべてにおいてつなげていくようにする。学校の心プロジェクトで取り組む全校道徳集会へもつながるようにしていく。

「いのち」にかかわる授業を中心とした道徳教育推進の取組			
教科・領域	道徳		
市 町 村			
実 践 校		対 象	2年生
<p>1 ねらい</p> <p>○人には誰にでも「生きる力」が備わっており、自分にも備わっていることに気づく。</p> <p>○自分を支えてくれる周りの人々への感謝から生命の尊さに気づき、自他の生命を大切にしようとする心情を育てる。</p> <p>2 指導計画と実践</p> <p>【事前指導】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(学級活動)</p> <p>こころのノート「みんな みんな 生きているよ」を使って、自分の生まれた時のエピソードを聞いてメモさせておく。</p> </div> <p>保護者には、事前に子どもへの手紙の依頼（出生時・幼い頃のエピソードなど）をしており、道徳学習の意図を理解して頂いた上でさらに本時への導入とした。</p> <p>【道徳の時間】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>主題名 いきるちから 3－（1）生命尊重</p> <p>資料名 「一まいのしゃしん」 出典（公文書院）</p> <p>活動内容・「一まいのしゃしん」を読み、お母さんの気持ちや「生きる力」について話し合う。</p> <p>・お家の人からの手紙を読み、支えてくれる家族への思いを深める。</p> </div> <p>①導入</p> <p>自分の病気や怪我した時を想起させながら、道徳副読材「一まいのしゃしん」に入る。</p> <p>②展開</p> <p>たかしくんを心配する母親の気持ちに気付かせ、たかしくんの持つ「生きる力」について考えた。誰もが持つ「生命」の強さや、その陰には家族や周りの人の思いに支えられていることについて気づかせていった。</p> <p>たかしくんが元気になったのは？</p> <p>「病気や怪我に負けない力」「病気を吹き飛ばす力」「お母さんの看病や思い」など</p> <p>「生きる力」とは？</p> <p>「元気に生活できる力」「体が成長すること」「いろいろ覚えられること」</p> <p>「休まず学校に行けること」「優しくできること」 など</p> <p>お家の人を書いた「命の手紙」を読む。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px; margin-top: 10px;">  <p>あまりにも元気すぎていつも「うるさい」とか「はねないで」とか言うけれど、本当は元気な〇〇ちゃんにうれしくなります。・・・弟が生まれてなかなか〇〇ちゃんとの時間がないけれどたまにはお話ししたりしたいね。お母さんは今兄弟三人がにこにこ笑っているのを見るのが一番幸せです。いつまでも心優しくにこにこ仲良くね。 お母さんより</p> </div>			

～手紙を読んだでの児童の感想～

いつもおこられていたけど、こんなに自分のことを思ってくれているとは思わなかったのでとても嬉しかった。(手紙を読んで涙していた)

お母さんやお父さんがここまで大切に育ててくれたから、今楽しく友だちとあそんだりできたんだ。

お家の人より

学校から帰ってきてすぐ、〇〇が「ママ、お手紙ありがとう。嬉しかった。」と飛びついて来ました。このような機会をつくって頂き、本当にありがとうございました。

【事後指導】

〈日常実践〉

- ・お家の人からもらった手紙の返事を書く。
- ・お家の人のおいを受けての自分の素直な気持ちを表現させる。

〈こころのノート〉

- ・元気カード〈元気の源となる項目を書いたもの〉を作成し、一日元気に過ごすことができたか記録してお家の人と一緒に振り返る。

手紙の返事を書こう

- ・お家の人からの手紙を何度も読み返し、一人ひとり嬉しそうに返事を書いていた。「早くお母さんに渡したいな」という声もたくさん聞こえた。

元気カードの内容

〈心のノート使用〉帰りの会で確認し、持ち帰り家庭でも意識づける
～元気パワー星5つ判定で1枚カードゲット 計7枚あり～

朝元気におきられた

ごはんがおいしい

学校のべん強が楽しい

やりたいことが
たくさんある

かいっぱいあそんだ

5枚は同じ内容で、あと2枚は自分で内容を考える。

子どもから出たカード

- ・お手伝いできた。・朝しっかりとトイレに行けた。・友だちと仲よくできた。
- ・運動をたくさんできた。・今月の歌を元気よく歌えた。など。

3 成果と課題 (○成果、●課題)

- 保護者の手紙により、子どもたちが自分の命の尊さや家族の思いに実感として気付かせることができた。
- 2年生として、事後指導の元気カードチェックで心と体の健康状態が確認でき、子どもが前向きな気持ちで生活するようになった。
- 2年生にとっての「生きる力」の押さえ方が難しかったので、子どもたちがより具体的に「生きる力」を捉えさせる必要があった。
- 母親の立場での思いを捉えるのではなく、たかし君の立場で一貫して考えさせることで等身大の自分と照らし合わせて考えることができたのではと思う。

「いのち」にかかわる授業を中心とした道徳教育推進の取組																															
教科・領域		特別活動																													
市 町 村																															
実 践 校		対 象	3 年 生																												
<p>1 ねらい</p> <p>第1学年から第6学年までの継続的発展的な指導計画をもとにした「いのち・こころ・からだの学習」をすることによって、各学年の発達段階に応じて、いのちに関わる知識を深めるとともに、自他を大切にしようとする心を育てる。</p>																															
<p>2 「いのち・こころ・からだの学習」指導計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>主題</th> <th>ねらい（目標）</th> <th>主な指導内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年</td> <td>男の子・女の子</td> <td>・体のつくりや男女の体の違いを理解し自他の体を大切にする態度を養う。</td> <td>・体のつくりや働き ・身体の清潔 ・自他の体を大切にする</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>わたしのたんじょう</td> <td>・自分は両親の愛情がむすばれて生まれてきたことを知り、自分の命はお父さんとお母さんの命とつながっていることを理解させる。</td> <td>・自分の命は両親と繋がっている ・自分が生まれたときの様子 ・赤ちゃんのはじまり ・赤ちゃんの育つ様子</td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>いのちのはじまりと赤ちゃんのたんじょう</td> <td>・自分のいのちのはじまりに興味を持ち、生命誕生までのしくみを理解する。 ・胎児の生命力を知ること、いのちの大切さを感じることができる。</td> <td>・自分のいのちはどのようにして始まったのか 赤ちゃんのもとがお母さんの体の中で出会い、いのちがはじまる。 ・胎児が育つ様子</td> </tr> <tr> <td>4年</td> <td>自分ってどんな子</td> <td>・自分のよいところを発見し、自分に自信を持つ。 ・友達の気持ちを考えながら、よいところを探して相手に伝えることの大切さを理解する。</td> <td>・自他の良いところ探し ・今までの自分を振り返る ・今の自分の気持ちを伝える（スピーチ）</td> </tr> <tr> <td>5年</td> <td>いのちをみつめる</td> <td>・自分のいのちは親から引き継がれた大切ないのちだということを実感させる。 ・いのちは「自分が持っている時間」であるという考えをもとにこれからの生き方について考える。</td> <td>・大震災を体験した作文 ・親の気持ち・自分の気持ちについて考えさせる。 ・日野原重明著書「10才のきみへ」をもとに今までの生活を振り返らせる。</td> </tr> <tr> <td>6年</td> <td>大人に向かって</td> <td>・自分の将来を見つめさせ、生きていることや大人に向かって成長していることを喜ばしいものと受け止めさせる。 ・将来に向けてよりよく生きるために何が大切かを考えさせ自他を大切に健全な意志決定と行動ができるようにする。</td> <td>・将来を予想させる。 ・12才の今の心と体をみつめさせる。 ・よりよい人間関係(同性・異性) ・性被害の防止(携帯電話・インターネット・服装・誘いにのらない等) ・将来に向けての心の準備(思いやり、強い意志等)</td> </tr> </tbody> </table>				学年	主題	ねらい（目標）	主な指導内容	1年	男の子・女の子	・体のつくりや男女の体の違いを理解し自他の体を大切にする態度を養う。	・体のつくりや働き ・身体の清潔 ・自他の体を大切にする	2年	わたしのたんじょう	・自分は両親の愛情がむすばれて生まれてきたことを知り、自分の命はお父さんとお母さんの命とつながっていることを理解させる。	・自分の命は両親と繋がっている ・自分が生まれたときの様子 ・赤ちゃんのはじまり ・赤ちゃんの育つ様子	3年	いのちのはじまりと赤ちゃんのたんじょう	・自分のいのちのはじまりに興味を持ち、生命誕生までのしくみを理解する。 ・胎児の生命力を知ること、いのちの大切さを感じることができる。	・自分のいのちはどのようにして始まったのか 赤ちゃんのもとがお母さんの体の中で出会い、いのちがはじまる。 ・胎児が育つ様子	4年	自分ってどんな子	・自分のよいところを発見し、自分に自信を持つ。 ・友達の気持ちを考えながら、よいところを探して相手に伝えることの大切さを理解する。	・自他の良いところ探し ・今までの自分を振り返る ・今の自分の気持ちを伝える（スピーチ）	5年	いのちをみつめる	・自分のいのちは親から引き継がれた大切ないのちだということを実感させる。 ・いのちは「自分が持っている時間」であるという考えをもとにこれからの生き方について考える。	・大震災を体験した作文 ・親の気持ち・自分の気持ちについて考えさせる。 ・日野原重明著書「10才のきみへ」をもとに今までの生活を振り返らせる。	6年	大人に向かって	・自分の将来を見つめさせ、生きていることや大人に向かって成長していることを喜ばしいものと受け止めさせる。 ・将来に向けてよりよく生きるために何が大切かを考えさせ自他を大切に健全な意志決定と行動ができるようにする。	・将来を予想させる。 ・12才の今の心と体をみつめさせる。 ・よりよい人間関係(同性・異性) ・性被害の防止(携帯電話・インターネット・服装・誘いにのらない等) ・将来に向けての心の準備(思いやり、強い意志等)
学年	主題	ねらい（目標）	主な指導内容																												
1年	男の子・女の子	・体のつくりや男女の体の違いを理解し自他の体を大切にする態度を養う。	・体のつくりや働き ・身体の清潔 ・自他の体を大切にする																												
2年	わたしのたんじょう	・自分は両親の愛情がむすばれて生まれてきたことを知り、自分の命はお父さんとお母さんの命とつながっていることを理解させる。	・自分の命は両親と繋がっている ・自分が生まれたときの様子 ・赤ちゃんのはじまり ・赤ちゃんの育つ様子																												
3年	いのちのはじまりと赤ちゃんのたんじょう	・自分のいのちのはじまりに興味を持ち、生命誕生までのしくみを理解する。 ・胎児の生命力を知ること、いのちの大切さを感じることができる。	・自分のいのちはどのようにして始まったのか 赤ちゃんのもとがお母さんの体の中で出会い、いのちがはじまる。 ・胎児が育つ様子																												
4年	自分ってどんな子	・自分のよいところを発見し、自分に自信を持つ。 ・友達の気持ちを考えながら、よいところを探して相手に伝えることの大切さを理解する。	・自他の良いところ探し ・今までの自分を振り返る ・今の自分の気持ちを伝える（スピーチ）																												
5年	いのちをみつめる	・自分のいのちは親から引き継がれた大切ないのちだということを実感させる。 ・いのちは「自分が持っている時間」であるという考えをもとにこれからの生き方について考える。	・大震災を体験した作文 ・親の気持ち・自分の気持ちについて考えさせる。 ・日野原重明著書「10才のきみへ」をもとに今までの生活を振り返らせる。																												
6年	大人に向かって	・自分の将来を見つめさせ、生きていることや大人に向かって成長していることを喜ばしいものと受け止めさせる。 ・将来に向けてよりよく生きるために何が大切かを考えさせ自他を大切に健全な意志決定と行動ができるようにする。	・将来を予想させる。 ・12才の今の心と体をみつめさせる。 ・よりよい人間関係(同性・異性) ・性被害の防止(携帯電話・インターネット・服装・誘いにのらない等) ・将来に向けての心の準備(思いやり、強い意志等)																												

3 第3学年の実践の概要

- (1) 主題名「いのちのはじまりと赤ちゃんの誕生」
 (2) 教科・領域との関連
 道徳「いただいたいのち」(命あるものを大切にする。)
 「健ちゃんをたすけろ」(自他の生命を大切にする。)
 「太助が行く」(生命の尊重)
 (3) 本時の展開

過程	○活動内容 ・ 指導上の留意点	資料等
導入 (5)	○昨年度までの復習をし、本時の学習の見通しを持つ。 ・ 2年生で学習してきたことを思い出させる。	ペープサート
展開 (30)	・ 赤ちゃん(いのち)のもとが、体のどこにあるか理解させる。	男女の人体図
	いのちのもとはどうやって出会うのでしょうか。	
	○身近な動物から考える。 サケ、シマウマ ・ 人間も、いのちのもとが合わさっていのちがうまれる事を確認させる。	写真 ペープサート
	○胎児の成長の様子を知る。 おなかの中の赤ちゃんはどのように育つのでしょうか。	ビデオ
	・ 胎児が育っていく様子のCGビデオや胎児の写真を見せ、みんな小さいいのちから大きくなっていくこと、小さくてもお母さんのおなかの中で一生懸命に育っていることを話す。 ・ お母さんと赤ちゃんのお互いが頑張って生まれてきたことを感じとらせる。	「おなかの中の赤ちゃんの成長と誕生」 写真
まとめ (10)	○本時の感想として、印象に残ったことや不思議に思ったこと、いのちへの思いなどを書く。 ・ 生命誕生までのしくみを理解できたか、また、胎児の成長と生命力を知り、ひとりひとりがかけがえのない存在であることを感じ取れているかを評価する。 ○本時の学習の感想を発表する。 ・ いのちの尊さ、かけがえのないいのちという意識を共有させる。	ワークシート

4 成果と課題 (○成果、●課題)

- 写真やビデオなどの視覚的な資料を活用することにより、児童の理解を促進し、また感動を与えることができた。
 ○指導計画によって、前の学年とのつながりも明確になっているため、復習から本時の展開への流れを円滑に行うことができた。
 ●「かけがえのないいのち」という意識のおさえが足りなかったため、感想を書く場面では、胎児が育っていく様子など、児童にとって印象的な内容に対する驚きと感動を書いた児童が多く、「かけがえのないいのち」という視点に言及してまとめを書く児童は一部だけに偏ってしまった。
 ●もっといのちの尊さについて取り上げた方が良かった。

「いのち」にかかわる授業を中心とした道徳教育推進の取組			
教科・領域	道徳		
市 町 村			
実 践 校		対 象	6 年生

1 ねらい

父が臨床的脳死を宣告され、臓器提供を行うか否かという岐路に立たされた家族の意思決定を考え話し合う中で、父の生命も提供される人の生命も、ともにかけがえのないものであることに気づき、命を大切にしようとする気持ちを育てる。

2 実践例

(1) 資料 薬品会社が作成した映像資料（「チームワーク」）

(2) 資料について

- 父が交通事故に遭い、医師から「臨床的脳死」を宣告される。臓器提供を行うか否かという岐路に立たされた家族の悲しみや苦悩を描く作品。
- 臓器移植という難しい問題を扱っているが、児童にとっても父が脳死となった家族の悲しみや苦悩がわかりやすい。
- この家族がこの後どんな決断をすべきか考えさせるような結末となっており自分の立場を考えたり友達と意見を話し合ったりする活動がしやすい。

(3) 主題設定の理由（ねらいとする価値について）

高学年における内容項目3-(2)「生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する」を受け、本主題を設定した。



臓器提供に関しては、臓器移植を受ける・臓器移植を拒否する・臓器を提供する・臓器提供を拒否する4つの権利が尊重されている。この4つの権利は自己の生命、他者の生命を大切に、個人の尊厳を尊重することが基本となっている。

父が脳死状態となった家族に迫られる決断。未だ心臓が動き体温にぬくもりもある父を犠牲にしてまでも臓器を他者に提供する矛盾、父との数え切れないくらいの思い出から臓器提供を拒否する決断。父の意思を受け継ぎ、他者の生命を救うために臓器を提供する決断。児童は、この2つの決断のジレンマに陥る。しかも、この2つの決断に優劣はない。つまりこの2つの決断は、いずれも尊重されるのである。

この2つの決断に共通することは、残りわずかではあるが父の生命を最後まで大切にしようとする思い、父の臓器提供によって他者の生命を救おうとする思い、いずれも「生命」を尊重する態度である。父と提供を受ける人の生命に軽重はなく、どちらかの生命が優先されることはない。つまり、どの生命もかけがえのない尊重されるものなのである。

(4) 展開

学 習 活 動 と 内 容	資 料
1 脳死や臓器移植についての理解を深める。 ・脳死状態になったら、もう命が助かることはないんだ。 ・臓器移植の判断は、早くやらないといけないんだ。 ・臓器移植で、他の人の命を救えるんだ。	PPT資料
2 映像資料を視聴する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">ひろしくんの家族は、この後、どう決断すればよいのでしょうか。</div>	VTR

<p>3 自分の意見を決定した後、グループとしての意見をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お父さんの命は残り少ないかもしれないけど、最後まで大切にしたい。 ・体が温かい父から臓器をとるなんてお父さんを殺してしまうようで絶対にいやだ。 ・お父さんが決めたことなんだから、尊重してあげよう。 ・残り少ない父の命で誰かを救えるのであれば、その方がよい。 		<p>ワークシート</p>
<p>4 ひろしくんの家族の決断について話し合う。</p>		<p>発表短冊 感想用紙</p>
<p>5 話し合ったことをもとに、感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・父の命も臓器をもらう人の命も、どちらも大切だ。 ・どの人の命もかけがえのないものなんだ。 		

3 授業後の感想

- ・いのちの大切さを感じた。あのお父さんはいいお父さんだと思った。授業を終えていのちがこんなにたいせつだといまはじめて思った。
- ・授業は、わかりやすかった。VTRが実際にありそうな物語だったので考えやすかった。先生の一生けん命な気持ちが感じた。先生は、おくさんが臓器移植したら、どっちの道をえらぶのだろうか？私は、どっちの道も、正しいと思う。最後はね。大切な人の命か、おおぜいの人の命か。なんか命って大切だね。
- ・私は、今日、授業で臓器移植をするか、しないかでとてもなやみました。でも、ちゃんと、理由を考えたりできてよかったです。あと、命の大切さや、家族の大切さもあらためてわかってよかったです。これからは、今回の授業を忘れず、よく考えて行動したり、命を大切にしたいです。
- ・実際に、こういうことがあったら冷静に決断はできないと思う。本人が移植する、と言っている家族は、そんな簡単にあげることはできないと思う。けれど、お父さんが生き返る確率は低いし、臓器提供をすれば、何人も助けることができるから臓器を提供した方がいいとも思う。何をしても死んでしまうのであれば、最後に誰かためになることをした方がいい。かっこいいことをしたら、助けられた人も感謝すると思うし、残った家族もお父さんのことを誇れると思う。

4 成果と課題(○成果、●課題)

- 臓器移植という難しい内容だったが、PPTを使い絵や図で説明したため、子どもたちの理解を助けることができた。また、映像資料は、子どもが自分のこととして考えやすい資料であった。
- 臓器移植の決断を考える経験を通して、命の大切さを深く考え、命の尊さに気づく機会となった。
- 今回は、小学校6年生で実施したが、中学生でも可能な実践となった。
- 学級が1つの意見に偏らないように配慮する。臓器移植を受ける・臓器移植を拒否する・臓器を提供する・臓器提供を拒否する4つの権利が尊重されていることを伝える。

「いのち」にかかわる授業を中心とした道徳教育推進の取組			
教科・領域	道徳、生活、特別活動		
市町村			
実践校		対象	2年生


1 ねらい（目標）

成長している自分を知り、「生きている」ことを実感し、「かけがえのない命」を知ることで、

- 自分のよいところに気づき、自分を高めようとする気持ちを育てる。
- 家族の愛情のもと生まれてきた命を大切にする気持ちを育てる。
- 多くの人に支えられている自分を知り、周りの人たちへの感謝の心を育てる。

2 年間指導計画の概要

日々の生活指導や道徳の授業を中心として、「いのち」にかかわる授業を展開していくが、2年生では、生活科「みんな大すき」で今までの自分の成長についてまとめ、自分の成長を新たにし、これからの自分について考える学習がある。3学期に実施する予定のこの単元に向け、年間を通して取り組んでいく。

道徳（主な題材）	生活	学級活動
<p>① 生きる喜び 資料「げんきでわくわく」 （副読本：文溪堂）</p> <p>② せかいで一番〇〇な音 参考「ふしぎな音」（副読本：文溪堂） 「いのちのおはなし」（講談社）</p> <p>③ ひとりひとりの命を大切に 資料「カーくんと森のなかまたち」 （ワイズ・アウル社）</p> <p>④ 小さな命 資料「ハムスター」（副読本：文溪堂）</p>		<p>○いのちの学しゅう 「男の子・女の子」 「おへそのひみつ」</p>
	○みんな大すき	

<p>⑤ 新しいお手伝い 資料「ぼくのうちの夕はん」 (副読本：文溪堂)</p>	<p>・大きくなったわたし たち ・今のわたし これ からのわたし</p>	
--	---	--

3 実践の概要（抜粋）

〈道徳〉

主題名『せかいで一番〇〇な音』 参考資料「ふしぎな音」（副読本：文溪堂）
「いのちのおはなし」（講談社）

内容①「せかいで一番〇〇な音」の〇〇にはどんなことばが入るか考える。

児童の発言 大きい音～電車の音、小さい音～ありさんの足音

やさしい音～すずの音、静かな音～川の静かな流れの音 等

②「せかいで一番尊い音」とはどんな音だろう。

“尊い”ということばの意味を教えた上で、どんな音か考える。

③「せかいで一番尊い音」を聞いてみる。

聴診器を用いて、自分の心音を聞いてみる。

④どんな音が聞こえたか発表し合う。

⑤心臓の音について、説明する。（例：一生で約 11 万回 等）

⑥命の音である心臓の音をどのように感じたかをワークシートにまとめる。

4 成果と課題（○成果、●課題）


○はじめに「～〇〇な音」と提示したことで、学習に対する興味を高めることができた。

○児童一人ひとりが実際に聴診器で自分の心音を聞くことで、意欲的に活動に取り組めた。

●聴診器を用いた活動は、児童の興味が高いので、やや時間が足りなかった。木の幹の音などを聞く時間も設けたい。

●心臓の音を命と結びつけて考えることが難しい児童がいた。

●感じたことを表現することが難しい児童へのことばかけの工夫が必要であった。

「いのち」にかかわる授業を中心とした道徳教育推進の取組							
教科・領域	道徳						
市町村							
実践校		対象	4年生				
<p>1 主題名 「すべてのいのちに まなざしを」 内容項目3－(1)</p> <p>2 ねらい(目標) 生命の尊さを感じ取り、自他の生命を尊重し、大切にしようとする心情を養う。</p> <p>3 実践例 (1) 本時の流れ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学 習 内 容</th> <th>指 導 上 の 留 意 点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <p>○西條八十の童謡「かなりや」を聴く。 ◆どんな感想をもちましたか</p> <p>○金子みすゞの詩「土」を読んで話し合う。 ◆心に残ったところはどこですか</p> <p>○自分の生活を見つめる。 ◆身の回りのどんなものに「いのち」を感じますか</p> <p>○関東大震災の後に書かれたみすゞの詩「去年のけふ」を紹介する。</p> <p>○学習を通して考えたことをノートに書き、発表する。</p> </td> <td> <p>○金子みすゞの敬愛する西條八十の童謡を聴くことでみすゞの世界に近づける。</p> <p>○みすゞが土に目を向け、いらぬ土はひとつもないとうたっていることに気付かせる。</p> <p>○みすゞのように、自分達にもみすゞと似たような眼差しがあることに気付かせる。</p> <p>○「いのち」に対する深い思いを抱ける人になってほしいという教師の思いを伝える。</p> </td> </tr> </tbody> </table>				学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点	<p>○西條八十の童謡「かなりや」を聴く。 ◆どんな感想をもちましたか</p> <p>○金子みすゞの詩「土」を読んで話し合う。 ◆心に残ったところはどこですか</p> <p>○自分の生活を見つめる。 ◆身の回りのどんなものに「いのち」を感じますか</p> <p>○関東大震災の後に書かれたみすゞの詩「去年のけふ」を紹介する。</p> <p>○学習を通して考えたことをノートに書き、発表する。</p>	<p>○金子みすゞの敬愛する西條八十の童謡を聴くことでみすゞの世界に近づける。</p> <p>○みすゞが土に目を向け、いらぬ土はひとつもないとうたっていることに気付かせる。</p> <p>○みすゞのように、自分達にもみすゞと似たような眼差しがあることに気付かせる。</p> <p>○「いのち」に対する深い思いを抱ける人になってほしいという教師の思いを伝える。</p>
学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点						
<p>○西條八十の童謡「かなりや」を聴く。 ◆どんな感想をもちましたか</p> <p>○金子みすゞの詩「土」を読んで話し合う。 ◆心に残ったところはどこですか</p> <p>○自分の生活を見つめる。 ◆身の回りのどんなものに「いのち」を感じますか</p> <p>○関東大震災の後に書かれたみすゞの詩「去年のけふ」を紹介する。</p> <p>○学習を通して考えたことをノートに書き、発表する。</p>	<p>○金子みすゞの敬愛する西條八十の童謡を聴くことでみすゞの世界に近づける。</p> <p>○みすゞが土に目を向け、いらぬ土はひとつもないとうたっていることに気付かせる。</p> <p>○みすゞのように、自分達にもみすゞと似たような眼差しがあることに気付かせる。</p> <p>○「いのち」に対する深い思いを抱ける人になってほしいという教師の思いを伝える。</p>						
							

(2) 資料について

童謡「かなりや」…金子みすゞが尊敬していた西條八十の作品。導入で聴かせることで言葉では説明できないみすゞが大切にしていた世界観に近づける効果をねらう。

詩「土」……………金子みすゞ作の詩。「世の中にあるものは、みんな何かの役に立っている。いらぬものなど何もない。自身をもって生きていこう」という勇気がわいてくる詩。

詩「去年のけふ」…金子みすゞ作の詩。関東大震災の恐ろしさや親を失った子どもの気持ちを思って書かれたと考えられている詩。東日本大震災で失われた「いのち」と重ね合わせて命の重みを感じさせることができる。

4 成果と課題 (○成果、●課題)

○授業の中では硬い表情を浮かべていた児童もいたが、その後に行った日直の朝のスピーチを聞くと、一人一人が日常の生活のなかで身近な植物や動物の「いのち」に眼差しを向けるようになっていく様子を感じられた。2学期になっても、スピーチのなかで「いのち」をテーマにした話をする子がいたことから、このような資料を用いて教師の思いが入った授業を行うと、子どもたちの記憶の中に「いのち」にかかわる道徳的な価値が入ることが感じられた。

●授業において、金子みすゞの詩から離れ、「自分の生活を見つめる」活動の時間が足りなかった。そのため子どもたちが授業の中で自分達の実際の生活を振り返って葛藤したり、今後の生活に結びつけて発言したりする時間を十分にとることができなかった。

⑤最近出産を経験した方や、小グループのだけではなく全体に広げたい保護者の話を学級全体に話していただき、親の願いや気持ちを理解する。

⑥本時の感想や、母親、家族に伝えたいことを発表し合い、自分や友達がかげがえのない存在であることに気付き、生きる喜びを感じ、自分や友達を大切にしようとする気持ちを持つ。

3 成果と課題 (○成果、●課題)

○児童にとって身近な動物の赤ちゃんや、「ハムスターのあかちゃん」の紙芝居や、実物大の人形を見ることにより、物語の世界に入り込んで、ハムスターの赤ちゃんの誕生や成長を喜び、成長の素晴らしさや生命の不思議さを感じ取ることができた。

○授業参観での実施であったので、たくさんの保護者の方の協力を得ることができ、担任一人で行う通常の授業より意欲が高まり、命の尊さについて深く考えることができ、効果的に指導することができた。


○保護者がグループでの話し合いに参加することにより、グループでの話し合いが活発なものとなった。児童は自分の保護者だけではなく、友達の保護者の話も聞くことができ、自分と同じように友達もかけがえのない存在として家族から愛情を注がれ、尊い命を持っていることに気づくことができた。

○本時の感想や、「自分の誕生を心待ちにし、喜んでくれた母親や家族に伝えたいこと」を考え、発表し合うことを通して、生命の尊さを感じるとともに、家族を思いやる気持ちを持つことができた。

○事前に、グループでの話し合い活動で話して欲しい内容について保護者に手紙で知らせたり、授業の始まりに確認したりすることにより、話し合いがスムーズに進行できた。

●全体の前で話していただく方は、事前に決めておき、担任が意図する内容が網羅できるように時間をかけて打ち合わせをしておいた方が、より効果的な指導ができたと思う。

●1学期末の実践であったので、実践後、他教科等との関連を図ることが不十分になってしまった。本時で終わらずに、適切な指導計画を立てることにより、指導の効果を高め、道徳的实践力を高める必要がある。

「いのち」にかかわる授業を中心とした道徳教育推進の取組			
教科・領域	技術・家庭、保健体育		
市町村			
実践校		対象	3年生
<p>1 ねらい</p> <p>(1) 家族や周囲の人に成長への感謝の気持ちをもち、誕生の意味と価値を再確認する。</p> <p>(2) 「自他の生命を大切に育んでいこうとする力」や「生命の大切さ」を実感することにより、自分の生き方を考えさせる。</p> <p>2 単元指導計画</p> <p><第1回> 母子との触れ合い体験「子を思う親の気持ち」(技術・家庭) ※図書館指導員によるブックトーク「誕生の意味と価値」</p> <p><第2回> 助産師さんの講話「生命の大切さ」(保健体育)</p> <p><第3回> 卵の子育て疑似体験「命の学習」(技術・家庭)</p> <p>3 実践の概要</p> <p><第1回> 母子との触れ合い体験</p> <p>(1) 日時 3年生:〇月実施 (技術・家庭)</p> <p>(2) 内容 ①お母さんと幼児の紹介(4組)</p> <p>②〇組の母子との交流会の流れを知る。</p> <p>③事前に考えた母子への質問や、幼児と遊んだりだっこさせてもらうなどして、20分くらい4組の母子と交流する。</p> <p>④交流会で触れ合いの報告をし、班ごとにまとめる。</p> <p>⑤班ごとに発表し、「子育て中の親の役割や気持ち」を知る。</p> <p>～生徒の感想～</p> <p>赤ちゃんって本当にかわいい。お母さんは我が子のためにそばで見守り支えていることもわかった。自分もこのように大切に育てられていたと思うと今よりももっと自分自身を大切にしていきたい。</p>  <p>家庭内では、赤ちゃんを危険から守るために、どんな工夫をしているのですか。</p> <p>赤ちゃんとお母さんに家庭科室に来ていただき、交流会をもちました。お母さんへの質問や赤ちゃんに触れ合うことで子育て中の親の気持ちや役割を知ることができました。中学生は、自分の幼児期を思い出す機会になり、改めて家族への感謝の気持ちと命の尊さを感じる機会となりました。次時では、図書館指導員の先生から「いのち」に関わる本の紹介をしていただくブックトークを行いました。</p> <p><第2回> 助産師さんの講話「生命の大切さ」</p> <p>(1) 日時 3年生:〇月 5・6校時(保健体育)</p> <p>(2) 内容 ①生命を育むことの責任と重さを感じる。</p> <p>②自分の生命力に気づき、自己肯定感をもち、お互いの存在を大切に思う気持ちを育てる</p> <p>③自分の体を大切にすることと、相手の心と体を尊重することを知る。</p>			

～生徒の感想～

- ・生命を生んで育てることは責任重大であることがわかった。命の大切さや尊さを感じた。
- ・赤ちゃんが誕生することは大切なことだ。
- ・自分が子どもをもつことになったら可愛がってあげたい。自分の命の大切さを知った。

助産師さんからの講話は、新しい生命を育むことの責任の重さや生命誕生のすばらしさだけでなく、性の正しい知識や自分の体を大切にすること相手の心と体を尊重することを学ぶ貴重な時間となりました。

<第3回> 卵の子育て疑似体験「命の学習～子育て体験をしよう～」

(1)日時 3年生:〇月 2週間(技術・家庭)

(2)内容 ①パートナー(男女でペア)を作る。

②子育ての約束事の確認をする。

③命の誕生 → 命名と子育て環境の検討 → 誕生の喜びの日記記入 → 保育所への入所手続きを済ませる。

④2週間の子育て開始と保育日記への記入。

⑤我が子の成長の様子をパートナーと共に語る。



大椎保育所に預けられた卵たち

～生徒の感想～

- ・卵への命名や子育ての環境をパートナーと相談して決めていく過程で「我が子のいのちを絶対守るんだ」という意識が強くなった。
- ・2週間の子育ては大変だったけど、毎日日記に記入していくうちに我が子が成長していくことがうれしく、パートナーと協力して子育てをした。
- ・成長の様子を母に相談して日記を書く中で、自分がどれだけ愛情注がれていたかがわかった。
「家族のみんな今までありがとう。そして、これからもよろしく。」

今日はお父さんがお迎えに来てくれる日だよ。

男女一組で卵を二週間育てる疑似体験です。二人で名前の由来を考えて命名し、一日交換で卵を自宅へ持ち帰りながら子育てを続けます。卵は、2週間で0～5歳まで成長させ、保育日記もつけます。命の大切さや自分がどのように家族から育てられたのかを感じることができる授業です。感謝の気持ちと命の尊さを体験する学習です。

4 成果と課題 (○成果、●課題)

- 赤ちゃんと触れ合い子育てに関わるお母さんに話を聞くことは、「かわいい」だけでなく、「いのちを大切に思う親の愛情」を深く感じることでできる機会となった。
- 助産師さんからの講話は、体験に基づく内容で自分のこれからの生活に結びつけやすく、自分や相手のことを考え「いのち」として責任をもつ大切さを学ぶことができた。
- 親子の会話が希薄になりはじめる中学3年生に位置づけた卵の子育ては、自分の成長をふり振り返りながら、子どもの成長を願う親の気持ちを考えられると共に、疑似体験や保育日記への記入を通して「いのち」の大切さを再確認し、親子の会話を増やす機会となった。
- 母子・図書館指導員・助産師・保護者との打ち合わせ行い、学習の流れ、役割分担、生徒からの質問項目の調整が重要である。また、理解を得るために学年や学校だよりを通して協力を要請したり、授業の様子を掲示するなど広報活動を進めることも必要である。

「いのち」にかかわる授業を中心とした道徳教育推進の取組			
教科・領域	技術・家庭、特別活動、道徳等の総合単元		
市町村			
実践校		対象	3年生
<p>1 ねらい</p> <p>「かけがえのないいのち」、「子を思う親の気持ち」「育児の大切さ」などを知ることにより、自分を大切にし他を思いやる心を育て、これからの自分の生き方を考えさせる。</p> <p>2 単元指導計画 ～「いのちの授業」3回シリーズ～</p> <p><第1回> 赤ちゃん沐浴人形の抱っこと妊婦ジャケットの体験と振り返り(技術・家庭)</p> <p><第2回> ふれあい交流会と男性教諭の 父親 子育て談 (特別活動)</p> <p>※ 保護者からの手紙を読む、保護者へ手紙を書く (道徳)</p> <p><第3回> 学校医の講話「いのちを考える」と振り返り (保健体育)</p> <p>3 実践の概要</p> <p><第1回> 赤ちゃん沐浴人形のだっこと妊婦ジャケットの体験</p> <p>(1) 時 程 平成〇年〇月〇日 4校時 (技術・家庭)</p> <p>(2) 内 容</p> <p>①家庭科のK教諭の経験談を聞く。</p> <p>②赤ちゃん人形のだっこ体験：</p> <p>③妊婦体験：妊婦ジャケット（8キロ）を着用し、いろいろな動作を行う。</p> <p>④振り返り</p> <p><第2回> ふれあい交流会と男性教諭子育て談、親子の手紙</p> <p>(1) 日 時 平成〇年〇月〇日 2～4校時 (道徳・特活)</p> <p>(2) 内 容</p> <p>①男性教諭の子育て談「父親としての我が子への思い」(10分)</p> <p>②ふれあい交流会(50分) <乳幼児の親子8組～父親含む></p> <p>※各グループに職員または地域の協力者がつく。</p> <p>a 自己紹介とママさん・パパさんのお話(育児をする親の気持ち)</p> <p>b 質問タイム c 乳幼児とのふれあい d お礼の言葉と振り返りの記入</p> <p>③保護者からの手紙を読み、保護者に手紙を書く(道徳)</p> <p><第3回> 学校医の講話「いのちを考える」</p> <p>(1) 日 時 平成〇年〇月〇日 5校時 (保健体育)</p> <p>(2) 内 容 ①学校医S先生の講話を聴く</p> <p>4 事後指導</p> <p>関連教科等(総合的な学習の時間、理科、社会、数学)で生命尊重に関わる学習につなげ、家庭でも話題にできるよう、「学校だより」「保健だより」等で情報を発信する。</p>			



ふれあい交流：赤ちゃんのだっこ

「いのちの授業」を実施して

実施内容と生徒の感想の一部を掲載します。おうちでも再度、『いのちについて考える』機会にしてください。

<第1回 赤ちゃん人形の抱っこと妊婦ジャケットの体験>

家庭科の〇〇先生から、妊娠中、出産、育児のお話を伺い、首の座っていない赤ちゃん人形(体重約3kg)の抱っこのしかたやおむつや衣服の着せ方などを体験しました。



赤ちゃん人形で衣服の着せ方を聞く

～ 生徒の感想 ～

- ・自分は年子なので、お母さんの大変さが少しわかりました。(女子)
- ・妊婦ジャケットを着てみて母は大変だったなあと思いました。(男子)

<第2回 〇〇先生の父親子育て談と赤ちゃんふれあい体験>

～ 生徒の感想 ～

パパであるF先生が、奥様が妊娠中や出産時の思い、子育ての大変さや責任、喜びなどを話してくれました。みんなで先生のお話に聞き入りました。

- ・子どもを産むことは命がけだということ、名前をつけるだけでも大変なことがよくわかりました。将来、同じ立場になった時、立派な父親になれるよういろいろなことをもっと知りたいと思った。(男子)
- ・お父さんも出産の時にいろんなことを考えているのだなあと思った。先生が言っていたように、誕生日には親に感謝しようと思う。(女子)
- ・いつか親になった時、今日のことを思い出したいです。(女子)

<第3回 学校医 〇〇先生の講話>

「健康とは？ 幸せとは？」という校医の先生の問いかけに、一生懸命考える時間になりました。

～ 生徒の感想 ～

- ・赤ちゃんがお腹の中で死んでしまうことが少なくないと知り、自分は生まれてこれたのだから、幸せな人生を送れるよう、健康について考えられるようにしたいです。(男子)
- ・毎日、一つ一つのことに感謝して、自分が今ここにいられるのが当たり前でないことを忘れずに過ごしたい。(女子)

5 成果と課題 (○成果、●課題)

- 今回のように、保護者や地域の方々、保健福祉センター、学校全体の協力を得て取り組んだ総合単元のシリーズ授業は、担任だけで行う単発の授業に比べ、生徒にとって、「いのち」の大切さをより深く考える機会となった。(生徒の振り返りや保護者の感想から)
- 多くの大人から直接話を聞け、妊婦体験や赤ちゃんとふれあう体験ができたことで、いのちを育むことの素晴らしさを実感し、産み育ててくれた親への感謝につながった。親子の会話の行き違いが出てくる思春期にこそ実施したい内容であると思われた。
- 学校だよりや保健だよりを通して家庭に情報提供し、命について話し合う機会が増えた。
- 学校内外の事前の連絡調整が重要となる。共通理解と役割分担を明確にしておく必要がある。

「いのち」にかかわる授業を中心とした道徳教育推進の取組			
教科・領域	数学		
市町村			
実践校		対象	3年生

1 本時のねらい

○「いのちの授業」としてのねらい

命を育むことの重さ、素晴らしさを知り、自分がかげがえのない存在であることに気付く。

○数学科としての本時の目標

出生率をもとに世代と生まれる人数を単純化した関数とみなし、変化のしかたや2数量の関係調べ、既習の関数とはことなる関数であることを説明することができる。

2 本時の展開

(1) 本時の目標を理解する。

- ・本時は「いのちの授業」の数学編である。
- ・複雑な問題を単純化して数学的に分析していく。

(2) 学習課題をつかむ。

「日本がもし100人の村だったら、人口はどのように変化するといえるのだろう」

- ・既習事項を使って考える。
- ・必要な情報を提供する。→合計特殊出生率 = 女性一人が生涯に産む子どもの平均数

(3) 見通しをもつ。

- ・2010年の出生率1.4で考えよう。100人を50組の夫婦と仮定しよう。

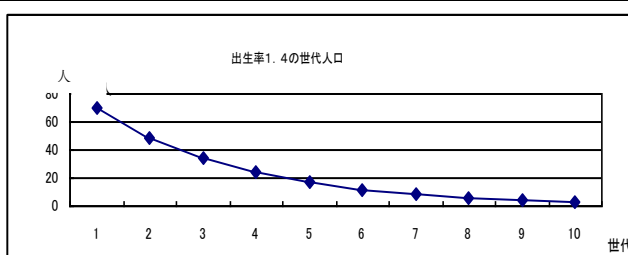
※夫婦2人から2人の子どもが生まれる場合→人口は1倍

夫婦2人から1.4人の子どもが生まれる場合→人口は0.7倍

(4) 課題を解決する。

- ・世代をx、世代人口をyとして、表やグラフをかこう。

世代 x	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
人口 y (人)	100	70	49	34	24	17	12	8	6	4	3



「何だか、いままで習った関数とは違うなあ」

- ・表やグラフからわかることは何か

変化の量が一定ではない→一次関数ではない
 x と y の積が一定ではない→反比例ではない
 x^2 に比例する関数か→原点を通過していないからいえない

} 既習の関数ではない。

- ・式を立てよう

$$y = 100 \times \left(\frac{7}{10}\right)^x$$

今の日本なら 1 億 3000 万人だから $13000 \text{ 万人} \times \left(\frac{7}{10}\right)^x$ つまり 3,672,178 人

(5) 振り返りをする。

- ・日本の問題から「私自身」へ視点に移そう。

◇ 私はなぜここにいるのか

- ・親がいたから、その親がいたから・・・

◇ 世代をさかのぼり、先祖の人数を考えよう

世代	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
人数 (人)	1	2	4	8	16	32	64	128	256	512	1024

- ・1 世代を 25 年とすると 100 年前は 16 人の先祖がいることになる。

◇ 私はどこにいくのか

- ・未来は永遠に続く 命のバトンをつなぐ
- ・2 人ずつ子どもを産めば 100 年後は 16 人の子孫ができることになる。

「私の命は私だけのものではない。命のバトンをわたしていくことは大切なこと！」

◇ 学習記録カードの記入

- ・学習の感想や気付いたことを書き、学んだことを振り返る。

～ 生徒の感想 ～

- ・数学を通して問題を考えていくと、いろいろなことが見えてくるなと思った。
- ・少子化だといわれてもピンとこないことが数学的に考えると具体的によくわかった。
- ・私たちがどう過ごすかで未来が変わっていくんだなと改めて感じた。
- ・命のつながり、このクラスのメンバーと一緒にあったのも奇跡なんだなと思った。
- ・自分の命を大切にし、産んでくれた親、親を産んでくれた祖父母・・・感謝したい。

3 成果と課題 (○成果、●課題)

○生徒の感想から、数学を利用して社会の問題に目を向け、数学の役割の広さを感じ取ることができている様子が見えた。また、道徳と数学との関連を目指した一つの試みとなった。

- 「日本が 100 人の村だったら」「出生率を 1.4 として」という想定で世代人口を単純化した等比数列に見立て、さらに「いろいろな関数」の内容に結びつけたことが適切であったかという点など、今後さらに修正を加える必要がある。

「いのち」にかかわる授業を中心とした道徳教育推進の取組			
教科・領域	道徳		
市 町 村			
実 践 校		対 象	1 年生
<p>1 ねらい かけがえのない命を尊び大切に育てる。</p> <p>2 実践事例 (その1) (1) 資料名 『暴力への報復』(新聞記事)・・・資料1 『生命を見つめて』(生徒作文)・・・資料2 (2) 授業の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1を配布し、ある町の暴行・死亡事故を紹介する。 (発問1) 幸せとは何だと思えますか。今日は、その、幸せについてみんなで話し合ってみましょう。 ・資料2を配付し、途中まで範読する。 (発問2) Aさん(作文の作者)は同じ病気の仲間(一緒に病気と闘ってきた仲間)にどんな思いを持っているのでしょうか。 ・出てきた意見を材料に、ペアで言葉の劇化を行わせる。 (発問3) 次々に亡くなっていく仲間に対して、猿渡さんはどんなことを考えたでしょうか。 ・15人の仲間の人物絵を用意(15枚)し、黒板に貼る。 ・亡くなっていく子の人物絵を一枚ずつ取っていく。 ・ワークシートに考えを書かせ、発表させる。 ・資料2の続きを範読する。 (説 明) Aさんは、この作文を書いた2か月後、帰らぬ人となりました。 ・しばらく間をとる。 ・BGMと共に「心のノート」のP72～P73の文章を朗読したテープを流し、余韻を持たせて終末とする。 ・授業の感想を書かせる。 <p>(3) 成果と課題 (○成果、●課題)</p> <p>○資料は二つとも生徒の心に響いたようで、真剣に受けとめ、よく考えていた。</p> <p>●「命の大切さ」のとらえ方が対照的である2例を対比するという観点で2つの資料を選んだが、価値内容項目の的を絞るという点で不十分であった。どちらか一方の資料だけでも、「命の大切さ」を真剣に考えさせる授業ができるのではないか。</p>			

(その2)

(1) 資料名 詩『生きる』(谷川俊太郎)

(2) 授業の流れ

- ・震災被害者応援サイト「kizuna311」の活動を紹介する。
- ・谷川俊太郎の詩「生きる」とワークシートを配布し、佐藤浩市氏の朗読を聴かせる。
- ・この朗読への感想投稿(Webサイトの書き込み)を紹介する。
- ・一連ずつ区切って音読させて、この詩を鑑賞する。
- ・この詩の解説をする。
- ・詩を読んだ感想を書かせ、発表させる。
- ・小室等氏の楽曲『いま生きているということ』を紹介する。
- ・この詩を参考に「いま生きているということ」という題で自由に詩を創作させる。
- ・創作した作品を発表させて、授業のまとめをする。

(3) 『生きる』を読んだ生徒の感想と作品

(感想) ・いつも当たり前のように思っているけど、一秒一秒にもちゃんとした「生きる」意味があるんだと思った。こんな時だからこそ、自分がその時その時に悔いが残らないようにしたい。

- ・今こうして文字を書いていること、歌を聴いていること、そんな日常生活の中にたくさんの「生きている」って感じられる瞬間があるんだなあと思った。

(作品)

いま生きているということ
それは空がきれいなこと
友達と一緒に居られるということ
いま生きているということ
それはすごい奇跡
ラッキーなこと

いま生きているということ
今があるということ
自然があるということ
地球があるということ
命があるということ
今、私達が手を動かすということ

(4) 成果と課題 (○成果、●課題)

○ありふれた日常生活の一つ一つを再認識して、明日への行動をより充実させようとする生きる意欲を感じさせる感想が多かった。

●生徒に自由に詩を創作させたが、時間的に余裕がなくなってしまった。

1時間内で創作までさせるのはやや性急だったかもしれない。

●価値内容が「生命尊重」に絞りきれず、授業が「生き方」等、他の価値にも向かってしまった面があるように思う。しかし、大変魅力的な題材なので、授業展開の工夫をすれば、価値内容に迫れると思う。

「いのち」にかかわる授業を中心とした道徳教育推進の取組			
教科・領域	総合的な学習の時間		
市 町 村			
実践校		対 象	2・3年生

1 ねらい

- 救急救命の知識・方法を学び、体得させることにより、2年間を見通し普通救命講習修了証を習得させる。
- 活動を通して、命の尊さ、大切さを学び、講師の方々に感謝の気持ちを持って学習させる。

2 事前指導・経緯

- 毎年7月に消防署に訪問し、日程、内容等の打ち合わせを行い、申込み文書を提出する。
2年生2時間、3年生3時間扱いで実技演習を行う。
- 一週間の期間で行うため、9月に入り、正式な時間と担当学級、人数やグループ分けの資料をつくり、もう一度消防署に訪問し、細かい打ち合わせを行う。
- 消防署の救急、消防、レスキュー隊員の方々より実技演習を受ける。
- 教務主任が中心となって企画調整を行う。
- 3年時講習終了後、個人に修了証が発行される。

3 実施内容

2年生の講習内容・・・救命処置の流れ～心肺そ生法の流れ

- ・2学級合同で2時間扱いでの実技演習

<手順>

①反応の確認

②助けを呼ぶ

③気道の確保

④呼吸の確認

⑤正常な呼吸がなかったら人工呼吸（2回）

⑥胸骨圧迫

⑦心肺そ生法の実施

その後、止血法を学ぶ

< 救命処置の流れを知る >



<心肺そ生の実演>

3年生の講習内容・・・救命処置の流れ～心肺そ生法の流れ～AEDの手順
 ・1時間は学年全体でDVDを見ながら、復習をかねて講習を受ける。その後
 1学級単位で2時間扱いの実技演習を受ける。

<手順>

- ①～⑦
- ⑧AEDを傷病者の頭の横に置く
- ⑨AEDの電源を入れる
- ⑩電極パッドを貼る
- ⑪心電図の解析をする
- ⑫除細動（電気ショック）を行う
- ⑬心肺そ生法を再開
- ⑭AEDの手順と心肺そ生法のくりかえし



資料リーフレット「勇気を出して応急手当」

4 成果と課題（○成果、●課題）※生徒の感想から

○この普通救命講習会をうけて、とても勉強になりました。人工呼吸や心臓マッサージなどをやるかやらないで、助かる確率が大きく違ってくことを知りました。対処方法などを教えてもらい、とても勉強になりましたが、わかっているにもかかわらず実際に行動に移せなくては意味がありません。そのときには積極的に行動し、一つでも多くの命を救ってあげたいと思っています。

○心肺そ生法に加え、AEDの扱い方や意義を教えていただき、多くのことを学ぶことができました。今回は、人を助ける勇気の大切さも教わりました。もしもの場面に遭遇したならば、この3年間で学んだことを速やかに実践したいです。貴重な体験をさせていただき、消防署の方々には感謝しています。

【2年生】

	4	3	2	1	平均値
救急救命士の方の話をよくきくことができた	147	43	0	0	3.8
演習は思うようにできたか	67	101	21	1	3.2
来年の演習（電気ショック）が楽しみである	125	52	8	5	3.6

【3年生】

	4	3	2	1	平均値
救急救命士の方の話をよくきくことができた	153	22	1	0	3.9
演習（電気ショック）は思うようにできたか	134	37	4	1	3.7
3年間で普通救命修了証を取得できたのは誇れる	138	34	1	3	3.7
3年間の講習は楽しかった	142	32	2	0	3.8

「いのち」にかかわる授業を中心とした道徳教育推進の取組			
教科・領域	道徳		
市 町 村			
実 践 校		対 象	1 年 生
<p>1 ねらい</p> <p>自分の命は自分が預かってはいるものの自分だけのものではなく、かけがえのないものであることに気づき、与えられた人生を精いっぱい生きようとする態度を育てる。</p> <p>2 指導の流れ</p> <p><第1次> 「日本一短い家族への手紙」生徒から家族へ宛てた手紙 「日本一短い〇〇への手紙」という道徳の授業を行いその後、家族宛ての手紙を書かせそれぞれの家族に渡す。 「親から子へのメッセージ」回収（生徒には秘密） 生徒が家族宛てに書いた「日本一短い家族への手紙」と一緒に、保護者へのアンケート用紙を生徒には秘密に同封し、保護者全員から子どもへのメッセージを集める。</p> <p><第2次> 【本時の展開】「一冊のアルバム」 本時の終盤で、家族からのメッセージを生徒に渡す。</p> <p>3 授業実践</p>			
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">主な学習活動</div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">生徒の反応</div>	
導 入	「自分なんて生まれてこなければ良かった」という気持ちになったことがあるか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ある。けんかした時。怒られた時。 ・ない。 	
展 開 前 段	「一冊のアルバム」を担当が読み聞かせる。 主人公の行動・心の動きについて考える。 ① 何があったのか。 ② 自分だったらどう思うか。 ③ 由美の姿を見た母の行動は？由美は？	①あいつなんかいなくてもいいと言われた。 ②すごく悲しい。自分はダメ人間だ。 お母さんは分かってくれない。 ③ずっとそばにいてくれた。 ・お母さんは心配してくれているんだ。	
展 開 後 段	物語の展開を、自分や自分の家族に置き換えて考える。 保護者からのメッセージを生徒に渡す。 保護者からのメッセージの返事を書く。	・花瓶を倒した時点で怒られる。 ・慰めてくれる。心配してくれる。 ◎素直に喜ぶ生徒、無表情な生徒と様々であったが、みなメッセージに目を通していった。 ◎ほとんどの生徒がすぐに書き始めたが、なかなか書けない生徒もいて、翌日に続きを書かせた。	

4 資料内容「一冊のアルバム」 (中学校の新しい道1年)

主人公の由美はある日、体育館で男子が自分の陰口を言っているのを聞いてしまう。確かに不器用でダンスもうまくない。でも、一生懸命やっていたのに「あいつがいなければ…」といわれてショックを受ける。そんなイライラを母にぶつけ「私なんか生まれてこなければよかった」と言ってしまうのである。母が持ってきてくれた一冊のアルバム。そこには由美の誕生・成長を喜んでくれる家族をはじめ、たくさんの人が写っていた。周りの人々に囲まれて今まで育ってきたことを実感し、「生まれてこなければよかった」という言葉を母にぶつけてしまったことを申し訳なく思うのだった。

- 5 保護者アンケート内容
- ①「どんな人」になってほしいとお考えですか？
 - ②「いてくれて良かった…」と思うときはどんな時ですか？
 - ③日頃、面と向かっては伝えられないこと。

《保護者からのメッセージ》

- ・どんな時でも、いてくれて良かったと感じています。
- ・いつもいてくれることが当たり前になっています。いてくれないと困る大切な存在です。

《生徒の感想》(自由記述)

- ・いつもは厳しいけど、こんな風に思ってたなんて少し嬉しい。少しはずかしい……。
- ・嬉しかった。こんなこと思っているんだあ～と思ってビックリした。
- ・自分は今「思いやりのある優しい人になれているのかなあ～」という気持ちとお母さんが私に「いつもありがとう」って言うんじゃないかと、私が「育ててくれてありがとう」って言わないといけないのという気持ちになりました。感謝です！
- ・普段こんなことを話したりしないので、こんな風に思ってるんだと思いなんだかはずかしい。
- ・いつも文句ばかり言っているから申し訳ない。少しは手伝いもしなきゃいけないと思った。
- ・毎日「いてくれて良かった。」と思ってきていたことが嬉しかった。
- ・家の人からのメッセージを読んで私はちょっと感動しました。私のことを大事に思っていて、本当にあたたかい気持ちになりました。
- ・ケンカをすると嫌な気持ちになるけれど、心ではこう思ってるんだなあと思い嬉しかった。
- ・「自分がいて良かった」と思った。こんな幸せで、楽しい、明るい家族で……。

6 成果と課題 (○成果、●課題)

- 教材研究の際に生徒の実態を踏まえて、時間をかけて何度も展開を練り直してから実践した授業だったが生徒がいつも以上に真剣な態度でまた嬉しそうに取り組む姿が見られてよかった。
- 家族のメッセージを読むことで、自分の存在「命・生きていること」が大切だという気持ちを持たせた生徒が多かった。
- 家族からの手紙を配付したことで、生徒の意識が「家族愛」へ流れてしまう傾向にあったので、「授業のねらい：命・生きること」を強く感じ取れるような発問を意図的に入れるとよかった。
- ワークシートに記述させる箇所が多いと、生徒の感想が多岐にわたってしまうので、何を書かせるのかを吟味し、重きを置きたい部分について絞って書かせるようするとよかった。

「いのち」にかかわる授業を中心とした道徳教育推進の取組			
教科・領域	道徳		
市町村			
実践校		対象	2年生
<p>1 ねらい</p> <p>臓器移植法案が採択、施行された。そんな中、NHK「ETV特集」で「“さよなら”を言う前に～わが子の「脳死」と向き合った家族～」が放映された。「わが子が死にゆく」とはどういうことなのか。「脳死」とは何なのか。またその事実を逡巡しながらも受け入れていく家族のありさまを提言したものである。</p> <p>そのドキュメンタリーを通して、「死」は自分一人の問題ではなく、家族などつながりのある人たちにとっても同様の重さを持っているのだということを感じさせ、「死とは何か」ということを考えさせることで、「生とは何か」「命とは何か」ということについて深く考え、今後の人生や時間を大切なものとしてとらえていくようにしたい。</p>			
<p>2 実践例</p> <p>① 主題名 生命の尊重 3－(1) 資料 「“さよなら”を言う前に～わが子の「脳死」と向き合った家族～」NHK「ETV特集」</p> <p>② 本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 映像を通して「脳死」について心で受け止め、家族の感情について考えることができる。 臓器移植の是非について、それぞれの考えについて理解し、自分なりに悩み考えることができる。 <p>③ 本時の展開（略案）</p>			
過程	学習活動と内容	教師の支援・支援と評価項目・評価方法	
導入	<p>○新臓器移植カードの提示</p> <p>1 「死ぬ」とはどういうことか</p> <ul style="list-style-type: none"> 肺機能停止 心臓機能停止 脳機能停止 	<p>◎発言を肯定的に受容し、発言しやすい雰囲気にする</p> <p>☆一律にとらえていた「死」について、多様な要素があることに気づく</p>	
展開	<p>2 「脳死」についての説明から、定義を理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> 脳幹機能の停止 心肺機能が人工呼吸により継続される 心臓機能も維持される <p>3 ビデオ視聴、感じたことを発表する</p> <p>4 「臓器移植改正法」について知り、まとめる</p> <p>臓器提出の要件の改正</p>	<p>◎言葉が理解できるよう丁寧に説明する</p> <p>○医療の発達により「脳死」という新たな状態が起こりえるようになったことを理解させる</p> <p>○「“さよなら”を言う前に～わが子の「脳死」と向き合った家族～」視聴</p> <p>○「臓器移植改正法」について説明</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の書面による意思表示あり、遺族が拒まない ・本人の意思不明、遺族の書面での承諾あり <p>脳死判定の要件の改正</p> <p>小児の扱い</p> <p>5 新聞資料</p>	<p>○朝日新聞「臓器移植」連載記事より、移植により助かった人の立場についてもとらえさせる</p> <p>☆臓器移植について、「命」について、「死を受け入れる家族」について考え、感じたことを発表できる</p> <p>☆他の生徒の発言にふれ、自分の考えを深められることができる</p>
終末	6 本時における自分の考えをまとめる	☆死、脳死、臓器移植について考え、自分なりに考えを書くことができる

3 生徒の感想

- ・今まで「死ぬ」ということについて、あまり考えたことがありませんでした。ビデオを見た時に、女の子の目があまりにもひどくて、思わず泣いてしまいました。たまに「死にたいな」って遊びでいうことがあったのですが、「死ぬ」ということを決してなめてはいけないと思いました。もっと命を大切にしなければいけないと改めて思いました。
- ・脳死というのは、私たちでもなる可能性があるということがわかりました。私は脳死になったら、臓器提供をしてもいいと思っていました。でも脳死は脳は動いていなくても心臓は動いていて、ビデオの中の脳死の少女も必死に生きていることが伝わり、何より少女の家族の悲しみが伝わってきました。
- ・家族がもし脳死になったら、その現実を自分が受け入れることができるかな、と思いました。映像を見ながら、この人が自分の弟だったらと想像してみているとどうしても涙が出そうになりました。
- ・今自分がこの場にいることが幸せだと思った。世界には貧困や臓器提供を待っている人がいっぱいいると思います。そう思うと一つ一つの小さな事ですら、幸せだというふうに思いました。

4 成果と課題（○成果、●課題）

- 生徒が脳死や臓器移植といった概念を理解し、自分たちのこととしてとらえ始めた。
- 命の尊さなどを話題に家族の中で話し合う機会が生まれ、「生きる」ということについて真剣に考え出したことが見られた。
- 「命の尊さ」をテーマとした授業を年間計画などに位置付け、実践していくことが重要であることを実感し、計画的に取り組む必要を感じた。

「いのち」にかかわる授業を中心とした道徳教育推進の取組			
教科・領域	道徳		
市町村			
実践校		対象	2年生
<p>1 ねらい 東日本大震災で亡くなってしまった命が、いろいろな人の心の中で生き続けられるという思いを育む。</p> <p>2 指導計画 「つながる命」 <第1回> 「尊いのち」～震災から1ヶ月～ <第2回> 「大地いっぱいいのち」～震災から3ヶ月～ <第3回> 「あれから半年」～震災から6ヶ月～</p> <p>3 実践の概要 <第1回 「尊いのち」～震災から1ヶ月～> ○月○日(土) 授業参観 各教室 ○事前準備 (1)保護者から生徒宛に手紙を書いてもらう 内容：子どもの生まれたときのようす 中学2年生になるまでどのような想いで子育てをしてきたか。 今回の震災を通して感じる命の尊さについて。 (2)生徒に「学校生活に対する生徒の感想」のアンケートをとっておく ○展開 ・生徒アンケートより（学校生活が楽しいか？なぜ） → 学校生活に対する生徒の感想を引きだしておく。 ・生徒の、「震災から思うこと」からいくつか紹介 → 震災は、楽しい時間も一瞬で奪っていった。 → 楽しい毎日が、命あってのことだと普段は考えないが、今回の震災は命がどれほど尊いものなのか教えてくれた ・東日本大震災で亡くなったたくさんの方の命について考える → 亡くなってしまった命が、いろいろな人の心の中で生き続けられるということを考えさせる。 【つながる命】 ・保護者からの手紙を生徒に配布 → 読んだ感想を生徒に発表させる。 → さらに保護者の感想を発表してもらう。 ・今日の授業の感想を書かせる → 時間があれば、回収後、何人かの感想文を読む。</p> <p><第2回 「大地いっぱいいのち」～震災から3ヶ月～> ○月○(月) 学年道徳 柔道場 ○展開 教師（学年主任）が話をして、感想を書く形態 資料：『大地いっぱいいのち』よりプリント2枚「私の友達」「2年生になって」 ・前回の授業より『人は2度命をなくす』ということを確認 → 1度目は、命を失ったとき、2度目は、生きている人に忘れられたとき。 → 忘れないでいることが、その人の命を生かしてあげることになる。 → あの日の震災で失われた人たちのことを忘れずに、自分の命について真剣に考えよう。</p>			

・教師の話

「私は、今日〇月〇日は『命を大切にする日』とし、普段は当たり前前に生きていることを真剣に考え、命の尊さを感じる日にしています。」

「なぜなら、10年前の今日、当時顧問をしていた中学校の男子バレー部のみんなと同じ中学2年の男子が、登校時に交通事故で亡くなってしまったからです。」

「家族は、我が子をずっとみんなの心の中で生かしてあげてほしいと1冊の本『大地いっばいのいのち』を出版しました。」

「私自身、〇月〇日前後には必ず事故現場に花と線香をあげにいきます。」

「彼は、突然、命を絶たれ、目標も達成しないままこの世を去ってしまいました。」

・生徒が4月に書いた作文「2年生になって」を読む

→ 2年生になったときに自分たちも目標を書いている。

→ その目標に向かって、現在取り組んでいるか。

・昨日まで一緒にいた仲間が突然いなくなってしまうたら

→ 周りにいる人は、ものすごく悲しい。

・資料「私の友達」を読む

→ 一つの命は、関わった人みんなにとっても大切な命。

・今日の授業で思ったことを感想用紙に記入

→ 同じ2年生の命の話、3月11日の震災で考えた多くのことが今の自分に、しっかり生かされているのか。

<第3回 「あれから半年」～震災から6ヶ月～> 〇月〇日(金) 学年道徳 音楽室

○展開 DVDを視聴し、映像から感じ取ったことをワークシートに記入する形態

資料：『2011.3.11東日本大震災 ツイッターに寄せられた感動の話』

・資料を視聴

→ GREENEEN『震災応援ソング』と合わせて、震災直後の映像や、ボランティアで活動する姿・救助活動などが映像で流れ、ツイッターのつぶやきが活字で画面に出てくる。

→ その時何が起こっていたのか、TVで災害の様子は何度も見て、悲惨な状況は目にしていたが、見えないところで起きていた人間の温かさを知り、人の命の尊さや命のつながりについて改めて考える。

・ワークシートに記入

→ ワークシートの30個のつぶやきの中から、自分が心に残ったものを2つ選び理由を記入し、6ヶ月たって改めて今日の映像をみて考えたことを記入。

→ 自分たちの生活は、震災がある前と何も変わらない毎日に戻っているが、何もかもが変わってしまい、今も不自由な生活をしている人たちがいること、その人達のために力を尽くしている人がいることを忘れずにいよう！ということを確認。

4 成果と課題 (○成果、●課題)

○震災後に、親からの手紙を読むことで自分の命がいかに大切に思われているのかを感じ、周りの全ての命や、今の当たり前の生活を大切に思える心が育った。

○親戚や知り合いが震災に遭った家庭の複雑な思いを更に配慮する。

○震災のことを忘れずに、毎日を大切に過ごすということは自分のためにも人のためにもなるということ学んだ。

「いのち」にかかわる授業を中心とした道徳教育推進の取組			
教科・領域	道徳、特別活動		
市 町 村			
実 践 校		対 象	2年生
<p>1 ねらい（目標）</p> <p>○自分自身が多くの人に支えられ、多くの人とつながっていることに気づき、命を大切にしようとする心情を育てる。</p> <p>○命を使い切るまで精一杯生きようとする心情を育てる。</p> <p>2 実践例</p> <p>テーマ 「ホームレス中学生」をもとに、命について考える ～人と人との「つながり」という観点から、命の大切さに迫る～</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> 資料「ホームレス中学生」 田村裕 著（幻冬舎よしもと文庫） </div> <p>(1) 事前指導</p> <p>①生徒の実態・教師の願い</p> <p>中学校の時期は、誰でも大なり小なり悩みをかかえている。友人関係や部活動、勉強や進路など、悩みの要因は様々である。また、悩みをかかえた生徒の多くは、友人や親に相談して、この問題を解決している。悩みを自分一人で抱え込まずに、乗り越えていくことが、生きる上で大切である。この困難を乗り越えるための原動力となるのが、周りの人の支えであると考えられる。自分のためだけだと、つらい時に、あきらめたり、投げやりな気持ちになってしまったりしがちである。そこで、自分を支えてくれている人の存在に気づかせ、「誰かのためにがんばる」「この人を悲しませたくない」などという思いを持たせることによって、「命を大切にしよう」「精一杯生きよう」と思う原動力につなげさせたい。</p> <p>②事前の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰りの会を利用して、「自分の悩み」や「その解決方法」、「生きていくのがしんどいと思ったことはあるか、それはどんな時か」について、アンケートをとる。 ・学級活動において「自分の周りにいる人たち」を挙げさせる。 <p>(2) 実践内容</p> <p>人と人とのつながりという観点から、命の大切さを考えさせる道徳の授業を展開した。</p> <p>すばらしい「いのち」</p> <p>展開①事前のアンケート結果を知り、誰でも悩みを抱えていることを知る。</p>			

- ②「ホームレス中学生」(母親、お世話になったおばさんが亡くなる場所)を読む。
- ③自分が先生ならば、主人公にどんな手紙を書くか考える。
- ④恩師からの手紙を紹介する。
- ⑤「生きる」ために何が大切か、キーワードをまとめる。
- ⑥主人公が書いた手紙を聞き、感想を書く。

(3) 事後指導

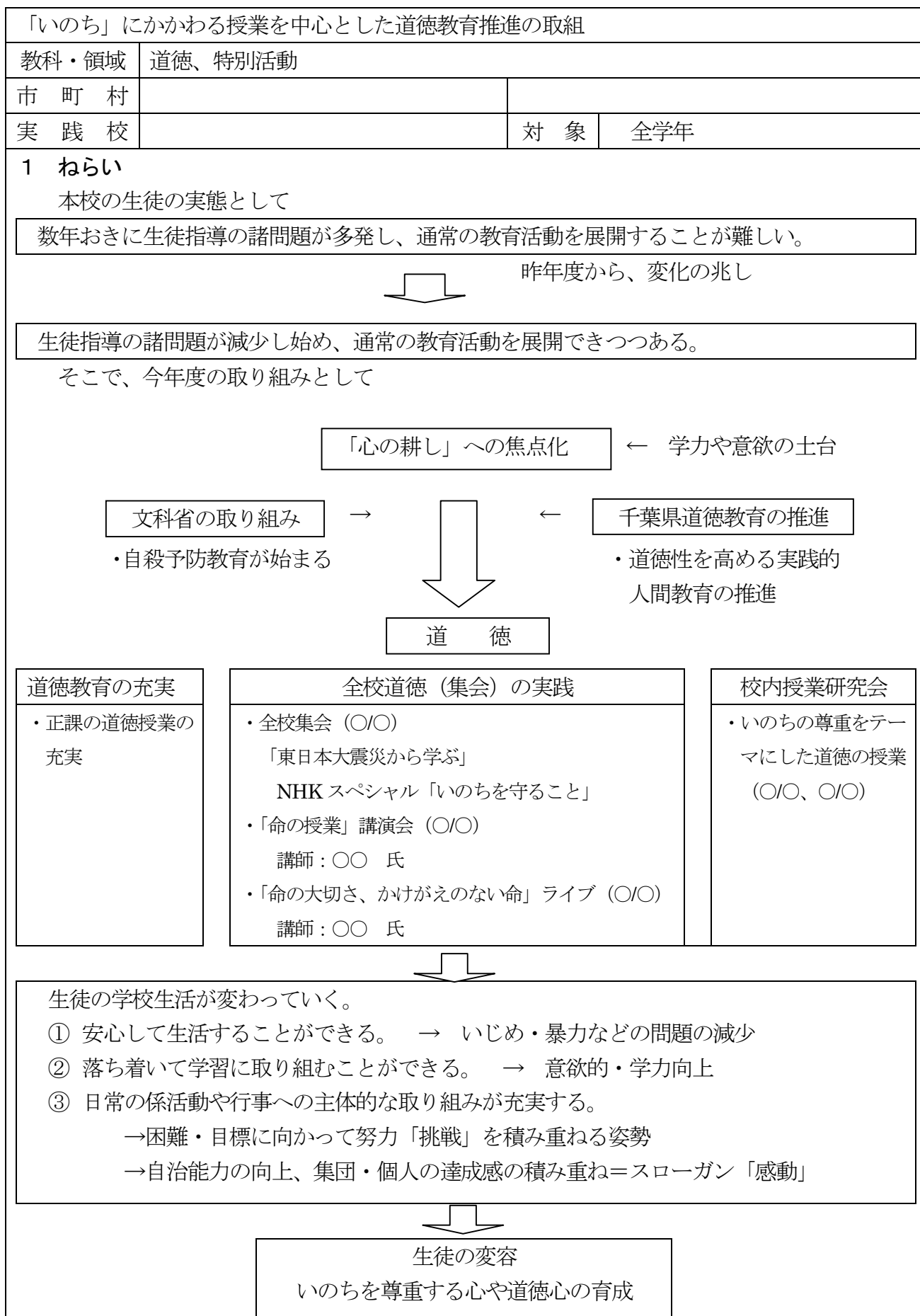
事前を書いておいた「自分の周りにいる人たち」を振り返ることで、「自分も支えられて生きていること」に気づかせた。

授業を終えての感想を書き、さらに、仲間の書いた感想を紹介することによって、道徳的な価値を深め合った。

3 成果と課題 (○成果、●課題)

○「多くの人に支えられていることに感謝し、がんばりたい」、「誰かに必要とされたり、誰かに喜んでもらえたりできるような人になりたい」「死んだ人に胸を張って会えるような生き方をしたい」という感想が多く、人と人とのつながりによって生きていること、生きることの大切さに気づかせることができた。

●学級独自の取り組みになってしまったので、全校体制で、その取り組みを広げていきたい。また、系統的かつ計画的な取り組みをしていきたい。


 生徒の学校生活が変わっていく。
 ① 安心して生活することができる。 → いじめ・暴力などの問題の減少
 ② 落ち着いて学習に取り組むことができる。 → 意欲的・学力向上
 ③ 日常の係活動や行事への主体的な取り組みが充実する。
 → 困難・目標に向かって努力「挑戦」を積み重ねる姿勢
 → 自治能力の向上、集団・個人の達成感の積み重ね＝スローガン「感動」

 生徒の変容
 いのちを尊重する心や道徳心の育成

2 実践

〈その1〉「いのちの大切さ」を題材にした全校道徳の授業

(1) 日 時 ○月○日 (木) 1校時

(2) 内 容

- ① 障害を持ちながら、福祉関係の社長として精力的に生きる〇〇さんの生き方を学ぶ。
- ② 「いのちの授業」講師、〇〇氏のプロフィールに触れ、〇〇氏が闘病生活の折に考えた「5つの誓い」について、生徒個々に考えさせ、講演会の事前指導とした。



〈その2〉全校生徒、保護者、地域の方々を対象にした「命の授業」講演

(1) 日 時 ○月○日 (土) 午後1:30~3:30 (文化祭の午後)

(2) 内 容

- ① テーマ「命の授業～今の幸せに気づくことから夢はひろがる～」
- ② お礼の全校合唱「コスモス」
- ③ 講演会会場において、「振り返り」の記入
*感じたこと、心の内を綴る

〈その3〉

- ・ ○月○日 (水) の要請訪問において、「いのちの大切さ」をテーマにした授業研究会を行い、授業力の向上を図る。



3 成果と課題 (○成果、●課題)

○講演会では、実体験に基づいた「生の声」を伺ったことで、思春期の多感な時期の生徒たちには、「命」に正面から向かい合い、考えるよい機会となった。

(生徒の「振り返り」や一般参加の方からの感想から)

- 全校一斉に事前指導を実施してから講演会に臨んだことにより、生徒の関心を高めて講演会に臨むことができた。
- 全校・学年道徳を柱として計画することで、正課道徳への教師の意欲が高まった。
- 日々の「心の耕し」に努めることで、生徒の生活が落ち着いてきた。あわせて文化祭と関連づけて全校合唱を仕組んだことにより、今まで以上に心のこもった歌声を響かせることができるようになった。
- 「いのち」に関わることをさらに深めていくには、系統立った取り組みの実践が必要である。
- 授業力の向上のための研修に、継続して取り組む必要がある。

「いのち」にかかわる授業を中心とした道徳教育推進の取組			
教科・領域	道徳、特別活動等の総合単元		
市 町 村			
実 践 校		対 象	全学年
<p>1 ねらい</p> <p>○千葉県いじめゼロ子どもサミットにて採択された「いじめゼロ宣言」に基づいたキャンペーン活動で、「いじめをゼロにしていこう」という意識を、学校から発信して地域社会全体で高めていく。</p> <p>○道徳の時間を要として道徳教育を展開するという観点から、全学年が「内容項目3－(1) 生命尊重」の授業を2時間程度展開して、生徒会の「イエローリボンキャンペーン」実施につなげる。</p> <p>2 平成22年度実践例（23年度も同様の計画）</p> <p>4月 新入生歓迎会でキャンペーンの紹介（企画委員より） 「いじめゼロ宣言」掲示物の作成 1年生対象のキャンペーン活動（署名、宣言期間）の実施</p> <p>10月後半～ 道徳の時間での授業展開「内容項目3－(1) 生命尊重」</p> <p>11月前半～ イエローリボンキャンペーン実施</p> <p>P T A、地域自治会、市教育委員会への啓発と協力要請、代表者会議で原案検討、リボン作成有志の募集、 「いじめゼロ宣言」掲示物の作成、イエローリボン作成、いじめゼロ宣言への署名活動とイエローリボン配布、 宣言書の掲示</p> <p>1月 イエローリボンキャンペーンについての意識調査</p> <p>・道徳の時間の授業展開（生徒の感想の下線は内容項目3－(1)にせまれたもの） 「忘れられぬあいつ」：内容項目3－(1)、関連項目4－(3) 生徒の感想 いじめの構図がよくわかった。傍観者にならないようにしていきたい。 <u>人を見た目で判断してはいけない。</u>一人ひとりの個性を認めることが大切。</p> <p>「1枚の写真」：内容項目3－(1)、関連項目4－(5) 生徒の感想 <u>自分なら写真を撮らず、すぐ助けると思う。</u> 写真を撮った後にすぐ助けたと思う。<u>自分なら怖くてカメラのピントも合わせられないと思う。</u> 事実を正確に伝えることは大切だと思う。それを見た人たち</p>			



がこういうことが2度と起こらないように考えなければならない。

「命の順番」：内容項目3－（1）、関連項目4－（5）、4－（6）

生徒の感想 難しい、坂下さんが悩むのはよくわかる。 命に重い、軽いはないので、手がけている順番でしょうがない。 自分なら若い人を助ける。仕事だから途中で別の人のところには行けない。

・「イエローリボンキャンペーン」

リボン作成参加者：生徒約150名、保護者（有志）、教職員

宣言人数：生徒 549名（全校生徒604名）

地域自治会 570名

市長・市議会議員・市教育委員会 110名

合計 1,229名



平成22年12月7日産経新聞

3 成果と課題(○成果、●課題)

○学校全体の取組と道徳を関連させることで、道徳教育の推進体制を充実させることができた。

○いじめアンケート報告数に変化があった。

期日	4月		5月		6月		7月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月
	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	不明
報告件数	8	19	12	22	20	7	11	10	5	5	4	5	1	5	3	3	0	0			
	3	9	7	14	7	4	5	9	4												

○各学年で道徳の時間に「内容項目3－（1）生命尊重」を扱い始めた時期から、報告件数が減少した。イエローリボンキャンペーンを11月後半から実施。2月からはいじめの報告がなくなった。

●道徳の時間に扱う内容項目の指導に関して、更に価値に迫る学習が図れるよう、教材の精選や、指導方法の研修、学級づくりを充実させる必要がある。

●いじめアンケートの成果はイエローリボンキャンペーンと道徳教育だけの成果ではなく、学校の教育活動全体からの成果といえる。道徳教育の成果をどのように捉えていくか、更に研修と工夫改善に努めなければならない。

「いのち」にかかわる授業を中心とした道徳教育推進の取組			
教科・領域	道徳		
市 町 村			
実 践 校		対 象	3年生
<p>1 ねらい（目標）</p> <p>人間の「命」は自分自身だけのものではなく、生かされていると感じる心情を育て、「命」に対する畏敬の念を深める。</p> <p>2 実践例 ～「遺愛集」 島 秋人～ (○=活動・発問 ・=留意点 ◎=評価)</p> <p>○島 秋人「遺愛集」から数編の短歌を提示し、教師が判読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短歌に対する解説は加えない。 ◎短歌から作者について想像しようとする。 <p>①この短歌を詠んだのはどんな人だろうか。</p> <p>「刑務所に入っている。」</p> <p>○島さんのプロフィールを紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の切ない状況の中で、「短歌」に没頭している島さんの姿に思いをはせるところまでいけばよい。 ・彼の今置かれている立場を認識し、境遇を理解させたい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">場面の設定</p> <p>場面1 農家に押し入り、</p> <p>場面2 中学校時代の美術の先生の奥さんから手紙が届く</p> <p>場面3 短歌作りに没頭</p> <p>場面4 前夜</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・罪の重大さはとらえさせたい。 <p>②○○が確定した島さんが短歌作りに没頭したのはなぜだろうか。</p> <p>「短歌に没頭することで恐怖を忘れたい。」</p> <p>「短歌を通じて誰かとつながりをもちたかった。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短歌作りが生きることへの実感を感じ始めるきっかけとなることをおさえたい。 <p>③前夜の最後の短歌はどんな歌を詠んだと思いますか。</p> <p>「命の大切さについて。」「感謝の気持ち。」「謝罪の気持ち。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前夜の短歌の存在を示唆し、その短歌への想像を原動力として考えをまとめさせる。 <p>④「自分の命」が自分だけの命ではないと感じたときはどんなときですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「命」が支えられて成り立っているという実感をもたせるように支援する。 <p>◎他者の「命」を例示したり、自分の命に対して家族をはじめとした他者の関わりについて考えを述べたりすることができる。</p>			

⑤授業の感想を書く。

◎「命」は自分だけのものではなく多くの人に支えられて生かされていることに気付き、考えを深める。


⑥【生徒の声】 ～「自分の命」が自分だけの命ではないと感じたとき～

「…その命は親からさずかった命であって、その小さな命一つに親からの希望もあるから、自分が間違った方向へ進んでしまうと親の希望をふみにじって〇〇と同じになってしまう。だから自分の命は親の命でもあると思う。」

「誰かに本当に『ありがとう』と言われたりしたときは、私がいることで救うことができたんだとか、私は必要としてもらえたんだと思い、『自分の命』は自分だけのものではなく、誰かの役に立っている、誰かのものでもあるんだと感じます。」

⑦【授業後の学級通信】


※ 全生徒の声を3回に分けて紹介




Sunshine

発行日

発行者



第 57 号



称賛の嵐！

昨日、3年3組で道徳の研究授業がありました。印西市と白井市の多くの先生方が参観にいらしていました。教室に入りきれないくらい多くの先生方に囲まれても堂々と語る事ができる組。

授業後の研究協議では おほめの言葉をたくさん頂きました。「クラスの雰囲気が良い。温かい雰囲気。親友の雑音もろくろく聞かずに、皆の前で自分の本音を語る信頼関係が出来ているクラス。5年に1度見れるほどの授業。今日来た先生方はラッキーだね。」様々とお絶賛でした。

そして、帰り際には先生方が私の所へ来て、「ありがとうございました。感謝しました。普段は生徒たちに心が温かくなりました。」と言葉をかけて帰っていかれました。

今回の授業を振り返った時、3年3組の普段の様子を本列中以外の多くの先生方に聞いてもらいました。

昨日の授業、みんないつも以上に元気。担任を助けろという皆の想いはみんなと伝わりました。いつも以上に授業をした感じが、いつも以上にみんなを見てあげた感じが、みんなの感謝や温かい気持ちに伝わる。3組って本当に魔法のクラスだね。みんなに感謝や優しい気持ちを伝える事ができるクラス。それを伝える時間をくれた私は本当に幸せです。

「遺愛集」 島 秋人

昨日の道徳の授業では、[] さんが島さんが獄中で詠んだ短歌を使って、「命」について考えました。道徳の資料の一部抜粋に授業の様子を紹介します。

★ [] さんが確認して島さんが短歌作りに没頭したのはなぜだろうか。

★ [] さんが確認して残り少ない人生を命の人生を振り返ってその思いを短歌に短歌の言葉で思いを込め、命を大切にすることを覚悟している。

- ★ …… 親に伝えたいことがあったから、自分の思いを伝えたい。命について考えたから、親に感謝した。命を大切にすることを覚悟している。()
- ★ [] さんが人の家族に反対を見せるため、人命の大切さを知り、それを他の人にも感じさせるため。()
- ★ 自分の思いを本音で伝えるのにはいいと思ったから、本音は恥を覚悟して心の強い人だと思った。優しい人だから、優しい人だと思った。()
- ★ …… 大切な人を亡くした悲しさを覚えているのに、自分の命が誰かの大切な人を [] さんが覚悟して、それを悔んで愛したことがあった。()

★ [] 前夜の最後の短歌はどんな短歌を詠んだか思い出した。

- ★ 今更にお世辞にばつた人()への感謝についてと島さんの母親に「大切に育てたのに、お世辞で死ぬことばつた。おんはよい」という短歌について… ()
- ★ …… 罪を犯した日などは遠くで後悔(今更に見ても)が見えてくる。後悔して自分の生活を改めてくれた親への感謝の思いも罪を犯したお世辞にばつたことばつたという思い。()
- ★ いのち、愛の大切さと「あつた、苦しい生活をしていたらお世辞にばつた。あつた。」()
- ★ 命の人生の中で愛を感じたこと。それを伝える一つの短歌にいい短歌だ。そして平和な日々を過ごしている人たちに、今は気持ちいいかもしれないけれど、いつも愛をもらっているんだと伝えた。()
- ★ 命が自分と関係して生きていくすべての人の感謝の気持ちを短歌に込めた。人の感謝の気持ちを一番大切に思う。何となくにも誰かに支えられている。()

続きは明日!!

3 成果と課題 (○成果、●課題)

●今回の授業では価値項目を「3-(2)『命』に対する畏敬の念」として行った。しかし、本資料では他の価値項目で授業を行うことも可能であると思う。生徒の実態に合わせて、価値項目を変えての実践も行っていきたい。

「いのち」にかかわる授業を中心とした道徳教育推進の取組	
教科・領域	特設「生き方の時間」(道徳の時間の先行研究)
実践校	
<p>《 研究開発課題 》</p> <p>「高等学校における道徳教育指導方法・評価方法及び教育課程に関する研究」</p> <p>1 研究のねらい ～期待される効果（以下は報告書より抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○命を大切にし、生きる力をもつ生徒の育成 ○自尊・他尊意識をもった生徒の育成と、いじめ、不登校などの解消 ○将来に希望をもち、進路実現に意欲的に取り組む生徒の育成 <p>2 研究の方法（抜粋）</p> <p>(1) 「生き方の時間」の創設</p> <p>全教育活動の中から、道徳的分野を「生き方の時間」に移行し系統立てて実施する。</p> <p>(2) 生徒の実態把握とテーマの設定</p> <p>生徒の道徳性の実態・課題を分析し、当校における道徳教育の手法検討や内容の重点化を図るために、全校生徒にアンケート調査を実施した。(85項目の質問) 調査結果を、要素ごとにグループ化し、当校生徒の特徴を分析した。さらに中学校における23の価値項目を参考にし、当校の重点的に指導すべき課題を明らかにした。</p> <p>その結果、「高校生活」「自尊・他尊」「命」「社会・国際」「将来」の5つのテーマを設定し、学習内容を精選した。</p> <p>(3) 体験学習の重視</p> <p>社会人、卒業生、地域の方々等による「講演会」「交流会」を企画する。</p> <p>地域との交流やボランティア活動への参加の活性化を図る。</p> <p>3 テーマ学習「命：命を考えよう・命にふれよう・育てよう」に関わる代表事例</p> <p>1年 ①一人1プランター花作り ～花を育て観察を通し、感じたことをまとめる。(1時間)</p> <p>②ユニセフを知ろう ～世界の子供たちの現状を知る。(2時間)</p> <p>2年 ①作物を作り、命の源を知る ～田植え、稲刈り、収穫の3工程を体験し自然の恵みについて考える。(4時間)</p> <p>②講演「ひめゆりたちの沖縄戦」～平和と人権について考える。 (修学旅行事前学習)(2時間)</p> <p>3年 ①講演「命を輝かそう 性とは心を生きると書きます」(〇〇氏) ～命の尊厳について考える。(2時間)</p>	

4 実践事例

(1) テーマ 「命 ～ 奇跡のバトンタッチ ～」(3年 生き方の時間)

—君たちに伝えたいことがある 先生として、大人として—

(2) 本時の目標

- ① 命について考える
- ② 自他の命を大切にすることを育てる
- ③ 学び続けることの大切さを理解させる

(3) 本時の展開

①導入 自分はどのようにして生まれてきたのかを考える。

→ 45億年前に地球誕生、35億年前に生命誕生、単細胞から多細胞へ受け継がれる尊い命。

②展開1 系統図を書く。A3判の紙に書けるところまでさかのぼらせる。

→ 自分が生まれるまで何人が関わっているかを数える。(2ⁿ-1人)

DNAには人間すべての情報30億が入っている。自分のDNAは先祖から受け継ぎ子孫に受け継がれていく。

③展開2 命や学ぶことの大切さについて考える。

→ 自分だけでなく他人も多くの人から生まれた命。

鮭は命を受け渡すと死んでしまうが、なぜ人間は一緒に生きていくのか。

人間ほど生まれた時に未熟な(何もできない)動物はいない。だから親や周りの人たちに守られ、教えられて生きていく。

④まとめ 2名の教員の話聞き、振り返りを書く。(本時の担当は、保健体育と数学の教諭)

5 成果と課題(研究報告書より要約)

高等学校に期待される道徳教育は、教師主導ではなく、生徒自身が自発的に心を動かす機会を作ることが重要である。そのために体験学習は効果的であった。また、命や将来について真剣に学び合うことで、生徒と教職員に良好な関係ができたという成果もあった。

「生き方の時間」における体験的な活動は、心に潜在している要求や意欲を呼び起こし、それが生徒の学習意欲の向上につながった。「生き方の時間」を通して、自分の在り方を見直し教室に戻った生徒もいる。その成果を喜び、教師側も勇気づけられたことも多くあった。一方で、その成果が日常的に定着しない場合も多くみられた。

3年間の研究において、「体験学習で得た心の動き」を「日常的に定着させること」や「振り返り呼び起こすこと」が大きな課題であることが明確になった。最終年度は、「過去に得た感動などの心の動きを呼び起こす」ための教材の精選を行った。その結果、生徒が自分自身の課題に向き合い克服に努力を惜しまないということを後世に伝える役目を担うなど、成長する姿を目にすることができた。